

文部科学省委託

平成29年度

幼児教育の推進体制構築事業

- 「幼児教育アドバイザー」の育成・配置に関する調査研究
- 幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究

香川県 善通寺市教育委員会

平成30年3月

目次

■はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
調査研究テーマ及び調査研究課題	
■善通寺市 訪問の視点・・・・・・・・・・・・・・・・	2
調査研究計画及び調査研究体制（2年次）	
自治体の概要	
■幼稚園、保育所（園）の教育（保育）目標及び実践事例・・	4
■訪問時における県幼児教育スーパーバイザー、・・・・・・	5 9
市幼児教育アドバイザーの指導・助言	
■園内研修の実態調査から・・・・・・・・・・・・・・・・	6 5
■善通寺市幼児教育研修会から・・・・・・・・・・・・・・・・	6 7
■2年次の取組を振り返って・・・・・・・・・・・・・・・・	7 1
■おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	7 5
2年次の成果と今後の方向性	

※「園内研修」とは、保育所（園）や幼稚園等、乳幼児の教育・保育を行う施設内において、保育者が自ら行っていく研修をさしています。

はじめに

善通寺市では、市内の保育所（園）・幼稚園の保育者が、互いの保育を理解し合ったり、教育の目的の共有を図ったりしながら、市全体としての幼児教育の質を向上させたいと考え、平成28年度から「幼児教育の推進体制構築事業」に取り組んできました。

2年次である平成29年度は、各所・園を県幼児教育スーパーバイザー、市幼児教育アドバイザーとともに2回ずつ訪問し、保育参観後、保育者一人一人に対して具体的な保育場面をとらえて指導や助言を行いました。また、各所・園が作成した日案（デイリープログラム）や保育指導案に基づき、保育のねらいを達成するための環境構成や保育者の役割等に対する指導や助言の時間を十分に確保することができました。

平成30年度から実施される「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」では、保・幼・小の連携や接続が一層重視されていることをふまえ、保育者が互いの保育を参観し合うことで、他所・園の指導内容や指導方法の良さを学んだり、保育について語り合ったりする時間をもつことができました。12月には、保育所（園）、幼稚園、小学校の教員で合同の研修会を開催し、互いの保育・教育について情報交換し、円滑な「接続」の視点から、異校種間の連携について活発な話し合いが行われました。

調査研究テーマ

- 保育所（園）、幼稚園、認定こども園等を巡回指導・助言を行う「幼児教育アドバイザー」の育成・配置に関する調査研究（幼児教育アドバイザーとして必要とされる資質・能力に関する研究を含む）
- 幼児教育の質の向上を図るために必要な推進体制に関する調査研究

調査研究課題

平成27年策定の善通寺市「教育施策の大綱」～学んでよかった・学びつづけたいまち 善通寺をめざして～に基づき、幼児教育の充実のための具体的な取り組みとして、幼児教育アドバイザーを配置し、保育所（園）・幼稚園への教育内容や指導方法、指導環境の改善について助言・指導により、教員の資質・能力の向上を図る。

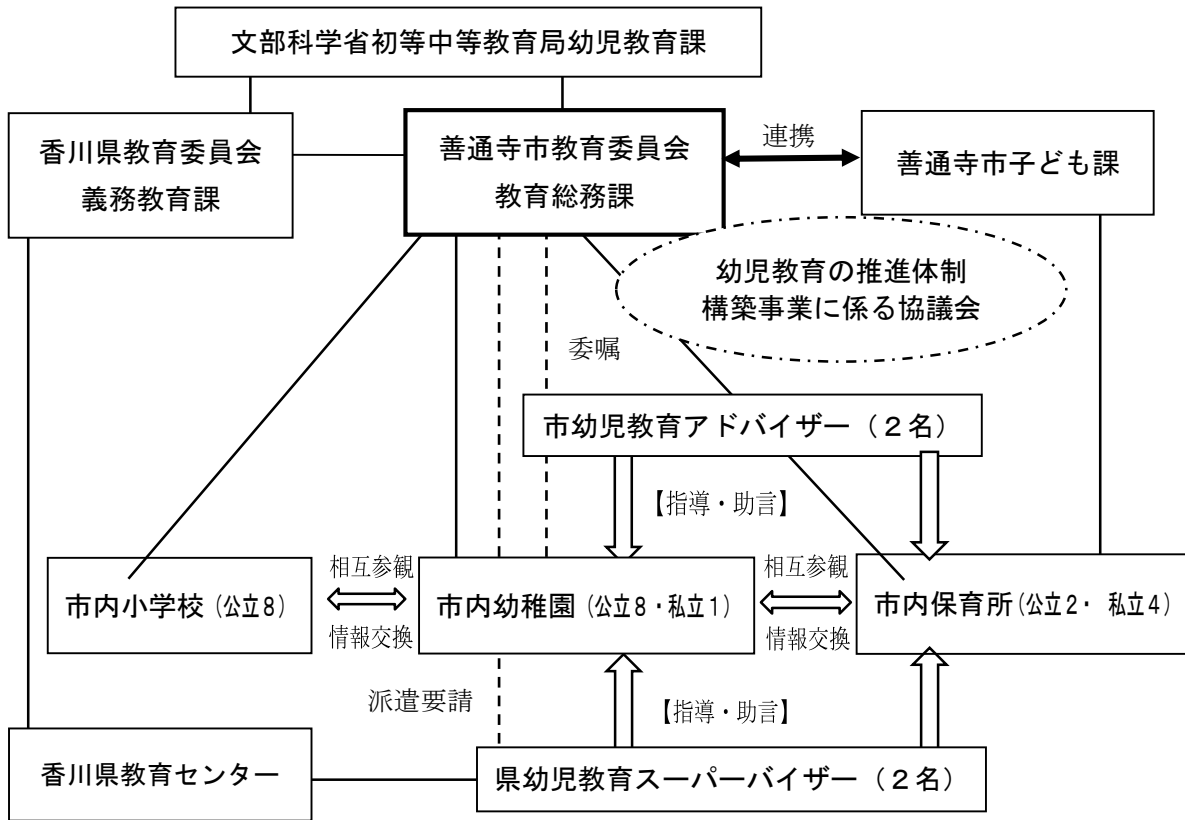
善通寺市 訪問の視点

『一人一人の良さや可能性を伸ばす子どもの主体的な活動の充実』

調査研究計画（2年次）

月	実施内容	幼児教育アドバイザー 育成研修等	普及・啓発
H29年度 4月	2年次前期の研究手法や内容を、全幼児教育施設に周知する。		
5月	全幼児教育施設への訪問（前期）の日程調整 市幼児教育アドバイザーの委嘱、県幼児教育スーパーバイザーの派遣要請		
6月	保育所（園）・幼稚園 訪問（5月～8月） 保育所（園）（公立2・私立4）・幼稚園（公立8・私立1） 県幼児教育スーパーバイザー・市幼児教育アドバイザーに所・園全体の様子や保育を参観していただき、良さや改善策を具体的に助言・指導していただく。		1年次の研究成果をHPに掲載（文部科学省）
7月			
8月	第1回幼児教育の推進体制構築事業に係る協議会（市） 調査研究実行委員が、2学期以降の研究手法や内容を検討し、その共通理解を図る。		
9月	2年次後期の研究手法や内容を、全幼児教育施設へ周知する。 全幼児教育施設への訪問（後期）の日程調整 県幼児教育スーパーバイザーの派遣要請		
10月	保育所（園）・幼稚園 訪問（9月～1月） 保育所（園）（公立2・私立4）・幼稚園（公立8・私立1） 県幼児教育スーパーバイザー・市幼児教育アドバイザーに所・園全体の様子や保育を参観していただき、前期と比べての良さや改善策を具体的に助言・指導していただく。		
11月	園内研修実態調査実施		
12月	善通寺市幼児教育研修会 保・幼・小の保育者、教員が互いの保育や教育について話し合い、情報共有を図る。		
1月		幼児教育の推進体制構築事業に係る連絡協議会（県）	
2月	2年次まとめの冊子作成 2年間の研究を振り返るアンケートを実施（全保育者）		
3月	第2回幼児教育の推進体制構築事業に係る協議会（市） 調査研究実行委員が、2年間の研究をふまえて3年次の研究手法や内容を検討し、共通理解を図る。		2年次まとめの冊子を配布
	完成 成果と課題のまとめ（県）		

調査研究体制（２年次）



自治体の概要

規模（平成30年1月1日現在）																	
都道府県・市区町村名											人口						
善通寺市											32,414人						
幼稚園			うち、幼稚園型 認定こども園			幼保連携型 認定こども園			保育所		うち、保育所型 認定こども園			地方裁量型 認定こども園		小学校	
9			0			0			6		0			0		8	
園			園			園			か所		園			園		校	
国	公	私	国	公	私	国	公	私	公	私	公	私	公	私	公	私	
0	8	1	0	0	0	0	0	0	2	4	0	0	0	0	0	0	
園	園	園	園	園	園	園	園	園	か所	か所	園	園	園	園	園	園	

幼稚園、保育所（園）の教育（保育）目標及び実践事例

善通寺市立中央幼稚園	5
善通寺市立東部幼稚園	9
善通寺市立西部幼稚園	13
善通寺市立南部幼稚園	17
善通寺市立竜川幼稚園	21
善通寺市立与北幼稚園	25
善通寺市立筆岡幼稚園	29
善通寺市立吉原幼稚園	33
善通寺聖母幼稚園	37
善通寺市立善通寺保育所	39
善通寺市立竜川保育所	43
カナン子育てプラザ 2 1	47
社会福祉法人愛和福祉会 吉原保育所	49
社会福祉法人船入福祉会 南部保育所	51
のぞみ保育園	55

善通寺市立中央幼稚園

1 本園の教育

■ 教育目標

豊かな心を持ち たくましく生きる子どもを育てる

■ 期待する子ども像

- 力いっぱい遊ぶ子ども
- 支え合う子ども
- 根気強い子ども
- よく見・よく聴き・考える子ども

■ 教育方針

- 望ましい生活習慣や態度の育成を図り、ひとりだちのできる子どもを育てる。
- 地域の自然や人々と触れ合う中で、豊かな感性と思いやりの心を育てる。
- 意欲をもって遊びに取り組んだり、いろいろな環境に主体的にかかわって生活したりする力を育てる。
- 幼・小・中との連携を深め、五訓を共通理解し、自己有用感の育成に努める。

2 園児数

平成30年1月9日現在

年齢	3歳	3歳	4歳	5歳	合計
クラス名	もも	ちゅうりっぷ	たんぽぽ	ゆり	
園児数	15	15	32	24	86

3 特色ある教育活動



小学生と一緒に折り紙したよ

人とのかかわり

- 異年齢児と
リレー、ボール遊びなど
- 小学生とのふれあい
- 地域の人とのふれあい
 - ・ 老人ホーム訪問
 - ・ 楽しい音楽遊び
 - ・ 楽しい文字遊び

手をつないで
お散歩しよう



自然とのふれあい

- 探索遊び
 - ・ 草花、木の実探し
 - ・ 草花での試し遊び
 - ・ 生き物探し
- 子ども農園や園庭での栽培
 - ・ 野菜作り
 - ・ 花の世話



秋の落ち葉でブーケ作り

よい習慣・態度づくり

- あいさつ運動
- 自分でしましょう
 - ・ 片付け
 - ・ 返事
 - ・ 服の着脱
 - ・ 手洗い
- はっきりと話す、聞く
- お手伝いしましょう
- みんなのつどい

心豊かな 感動体験

強い体づくり

- 運動遊び
 - ・ 動物体操
 - ・ マラソン
- ふるさとめぐり
 - ・ なかよしハイキング
 - ・ 園外保育







きれいにしよう！

4 実践事例

(1) 日案・・・平成29年10月24日

5歳児 ゆり組

男児13名 女児11名 計24名

時間	予想される幼児の活動	指導上の留意点及び保育者の援助
8:40	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登園 ・持ち物の片付け ○ 自らかかわる遊び (園庭) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人と笑顔であいさつをし、会話をしながら健康状態を把握する。 ○ いろいろな遊びができるよう、用具や遊具など準備しておく。 
9:15	<ul style="list-style-type: none"> ○ さわやかタイム ・マラソン ・みんなのつどい 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達とかかわり、好きな遊びを楽しめるようにする。  
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の会 ・お休み調べ ・歌・手遊び ○ 学級での活動 (園庭) ・リレー ・鬼遊び 等 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当番の進行を落ち着いて聞く姿を見守る。 ○ 季節を感じられるような歌や楽しい歌など、みんなで楽しく歌えるような雰囲気作りをする。 ○ 体を動かしたり、ルールのある遊びを楽しんだりできるようにする。 ○ 使った物をみんなで片付けるよう声を掛ける。
11:20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 給食 ・給食の準備・運搬・配膳 ・楽しい給食 ・後片付け・掃除 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 準備・配膳など、自分たちで当番活動をする姿を受け止め、マナーに気を付け、友達と一緒に楽しく給食を食べられるような言葉かけをする。 
13:20	自らかかわる遊び (次ページに記載)	
14:00	<ul style="list-style-type: none"> ○ 降園準備 ・帰りの会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の楽しかったことやおもしろかったことなど、活動を振り返り、友達のいろいろな話を聞いたり、明日の予定を聞いたりし、明日への期待がもてるようにする。
14:25	<ul style="list-style-type: none"> ○ 降園 	

(2) 保育指導案

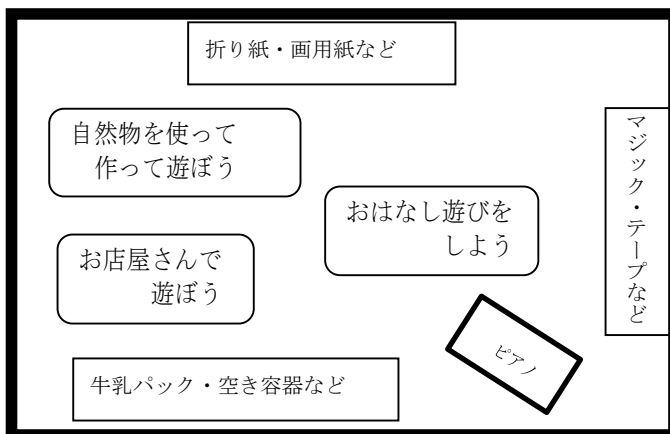
① 今日の遊びのねらい

- 友達と一緒に共通の目的に向かって、考えを伝え合いながら遊びを進めていく楽しさを味わう。
 - ・ イメージや目的が実現できるよう、工夫しながら遊ぶことを楽しむ。
 - ・ 自分の思いや考えを、言葉で伝え合うことを楽しむ。
 - ・ 遊びに必要な物を作り、友達と遊ぶ楽しさを味わう。

② 育てほしい姿（幼稚園教育要領より）

「協同性」「言葉による伝え合い」「豊かな感性と表現」

③ 今日の遊び



《準備物》

画用紙・折り紙・広告紙・新聞紙
段ボール・マジック・色鉛筆・鉛筆
セロテープ・はさみ・のり・ストロー
わりばし・たこ糸・ひも・タフロープ
リボン・毛糸・空き箱・空き容器
牛乳パック・ドングリ・まつぼっくり
テーブル・ベンチ など

◇予想される子どもの姿 ○保育者の援助 ☆環境構成

【秋の自然物を使って作って遊ぼう】

- ◇ 素材を選んで、工夫しながら作る。
- ◇ 遊び方を考え、作ったもので遊ぶ。
- 素材の種類に応じたものを作り、遊びを考えられるような援助をする。
- 遊びに参加したり、遊びの様子や工夫している様子を他の友達に知らせたりし、友達と楽しく遊べるような雰囲気作りをする。
- 作り方がわかりにくいときは、一緒に作ったり友達に教えてもらったりできるようなかわりをする。
- ☆ 自然物遊びに使えるように、いろいろな自然物や必要な用具を用意しておく。

「ぎゆうにゆうパックをつかって、つくってみようよ」



「こうやってみよう」
「それ、いいねえ！」
「こっちにおいたほうがいいかも」



「ストローをつないで、かざりにしようよ」

「どんなおはなしにする？」
「どうぶつのがっこうのおはなしにしようよ」



【おはなし遊びをしよう】

- ◇ 友達と一緒にどんなものがいいか考え、作ったりかいたりする。
- 友達と話したり、何を作るか考えたりしながら遊ぶ様子を見守るようにする。
- 子どもたちのアイデアを生かせるよう、仲間入りし、どんな内容にしようか話したり考えたりできるような援助をする。
- できたものを置く場所を決めたり、遊び方を考えたりできるように言葉かけをする。
- ☆ 今までに作っているものを、種類別に分けておき、遊びやすいようにしておく。

【お店屋さんで遊ぼう】

- ◇ アクセサリーやバッグなど、どんな品物を作ろうか友達と相談したり、お店屋さんに必要な物を作ったりして遊ぶ。
- 自分なりにイメージして、友達とアイデアを出し合う様子を見守り、遊びを進めていけるようにかかわる。
- 子どものアイデアを受け止め、お店屋さんの雰囲気をつくり、お店屋や品物作りを楽しめるように援助していく。
- ☆ 作りたいものを作れるよう、いろいろな材料を準備し、選びやすいようにしておく。

「つぎは、なにをつくらうかなあ」
「おかねをつくらうよ」



「〇〇くん、こうやって
おいてみたらどうかな？」

④ 評価

- 友達と一緒に遊ぶ中で、考えを伝え合ったり工夫したりしながら遊びを進め、楽しんでいたか。

(3) 実践を通して

- 友達と考えを出し合いながら遊びを進めていく様子が見られた。子どもたちのアイデアを引き出すこと、遊びを展開できるような援助をすることも必要であると思った。
- 一人で遊ぶ子もいたが、自分の作りたいものを作り、周りの様子を見ながら遊んでいた。このような遊びを積み重ねることで、友達とのかかわりもでき遊びを楽しむことができると考える。
- 主体的に遊びを進めていくには、子どもたちが今何に興味をもっているのか、一人一人を理解すること、季節やタイミング良く環境を整えていくことの大切さを改めて感じた。
- 遊びを振り返ることで、自分の思いを伝えたり友達の思いを聞いたりでき、次の日への期待をもてるのだと感じている。

5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 幼児教育アドバイザーの方から保育をじっくり参観していただき、専門的な立場からの指導を受け、日頃、見えていない子どもの様子や姿を知る機会になった。また、遊びの中での幼児の見方や考え方が具体的にわかり保育の質も高まっている。
- 保育参観後、少人数での話し合いができ、日々の保育の実態、疑問、迷いが幼児教育アドバイザーの方と個別に指導していただくことで保育の自信につながった。
- 日常の保育を参観していただくことで、子どもたち自ら選択して主体的に遊ぶ姿から意欲が高まり「言葉による伝え合い」「協同性」など多くの育ちが見られた。主体的遊びにつながるための環境の見直しをすることで、「やってみよう」という思いや試したり工夫したりする姿も見られるようになっていく。

【課題】

- 子どもが興味をもつ遊びの面白さを読み取ること、『今の子どもたちに何を体験させたいのかを考えること』を大切に保育者間で保育カンファレンスを続け共通理解を密にし、環境構成、教材研究など互いの資質向上につながるような研修を深めていきたい。
- 子どもたちが主体的に遊んだり活動したりするために『幼児期の終わりまでに育ってほしい姿10項目』を照らし合わせながら、どの部分が育っているのか保育者間で話し合い環境構成や援助のあり方を深めていきたい。

善通寺市立東部幼稚園

1 本園の教育

教育目標

優しい心と豊かな感性をもち
たくましく生きる子どもを育てる

めざす幼児像

- 友達と一緒に遊ぶ元気な子ども
- 最後までがんばる子ども
- 自分のことが自分でできる子ども
- きまりや約束を守る子ども
- 思いやりのある子ども
- 興味・関心をもち自分から働きかけのできる子ども

2 園児数

平成30年1月9日現在

年齢	3歳	4歳	5歳	5歳	合計
クラス名	ばら	もも	さくら	すみれ	
幼児数	22名	28名	18名	18名	86名

3 特色ある教育活動

実体験のできる環境構成の工夫

～人との関わり 自然との触れ合い よい習慣・態度づくり 強い体づくりを通して～

<人との関わり>

☆ 人との関わりを通して、子どもたちが主体的に遊びや活動に取り組めるように環境構成や援助を工夫する。

- 友達との触れ合い
 - ・グループ遊び・同年齢遊び・異年齢遊び
- 地域の人との触れ合い
 - ・ファミリー運動会
 - ・秋季大運動会
 - ・幼小交流会
 - ・高齢者とのつどい
 - ・食育教室



<自然との触れ合い>

☆ いろいろな活動や遊びを通して、自然の変化に気付いたり、発見を楽しんだりして、心豊かな経験につなげる。

- 動植物の飼育栽培
 - ・夏野菜の栽培・飼育物の世話
- 園庭での遊び
 - ・小動物探し・試し遊び
 - ・草花摘み
- 吉田の里めぐり
 - ・採取遊び・探索遊び



<よい習慣・態度づくり>

☆ 毎日繰り返し行う。教師が手本となるなど、定着できるように努力する。

- あいさつができる
- はっきりと話す
- 正しい姿勢で話を聞く
- 自分のことは自分でする
 - ・片付け・手洗い・服の着脱
- 友達と一緒にする
 - ・当番活動
 - ・きれいにしましょう（園庭や園周辺の掃除）



<強い体づくり>

☆ 子どもたちが進んで楽しく運動遊びに取り組めるように、興味・年齢に応じて、遊具等の環境を工夫する。

- おひさま広場
 - ・リレー・スケーター・一輪車・雲梯
 - ・フラフープ・巧技台・ボール遊び等
- 吉田の里めぐり
 - ・おにぎりハイキング
 - ・散歩
- がんばり大会
 - ・なわとび



4 実践事例

(1) 日案

子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 喜んで登園して来る子ども、少し不安そうにして来る子どもなど、朝は様々な表情が見られる。しかし、自分の好きな遊びをする中で、保育者や友達と会話をしたり、作っているものを認められたりすることで安心感を得ているようである。 	平成29年5月2日(火)	
		4歳児 もも組 男児17名 女児11名 計28名	
	ねらい 内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分の好きな遊びや場に関わって遊び、安心して過ごす。 ・ 自分のやりたいことを見付けて自分から関わる。 ・ 身の回りの片付けの仕方や生活の流れが分かる。 	
時間	生活の流れ	環境構成・保育者の援助	評価・反省
8:40	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登園する。 ○ あいさつをする。 ○ 持ち物や片付け等をする。 ○ 排泄や手洗いをする。 ○ 朝の会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人一人にあいさつをし、安心して園生活に入れるようにする。 ○ 言葉かけをしながら、子どもの心身の状態を把握する。 ○ 今日の遊びに興味をもてるように話をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 朝スムーズに部屋に入れない子どもが仲の良い友達と一緒に笑顔で部屋に入って来たのを見て、一人一人に応じた受け入れの仕方が必要であると感じた。
9:20	<ul style="list-style-type: none"> ○ こいのぼりまつりに参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 気温に応じて服の調節ができるように配慮する。 ○ 友達と一緒に楽しくつどいに参加できるように、子どもたちの様子を見ながら言葉かけをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ こいのぼり電車のゲームで、友達と一緒に走るために、速さを合わせるとよいことに気が付いて欲しいと思った。
10:20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな遊びをする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ スケート遊び ・ 砂場遊び ・ なかよしハウスやトンネルでままごと遊び  	<ul style="list-style-type: none"> ○ 砂を掘りやすくするために砂場に水をまいておく。 ・ 水汲みやままごとに使えるように、ペットボトルやトレー等を準備しておく。 ・ 草花は、保育者と一緒に探すことで、園庭で見付けられることに気付かせる。 ○ それぞれの遊びを把握しながら、安全面にも配慮する。 ○ やってみたい遊びを見付けたり、イメージをもって遊んだりできるように様子を見守りながら保育者も一緒に遊んだり、認めたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ スケートにバケツを取り付けて走って行く。戻って来るとバケツの中に葉っぱや木の枝が入っていた。なかよしハウスで遊んでいる友達に「ただいま、はい」と言って葉っぱ等を渡し再び「いってきます」「いってらっしゃい」と、お家ごっこをしていた。ごっこ遊びを通して友達と会話をしたり関わりをもったりすることができ始めていた。
11:20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 片付けをする。 ○ 手洗い、うがい、排泄をする。 ○ 給食の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 台拭き・運搬・配膳 ○ 給食を食べる。 ○ 歯磨きをする。 ○ 食器の片付けや掃除をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育者も一緒に遊具をもとの場所に納めたり、用具等を分類してしまったりしながら片付け方を教える。 ○ 手洗いやうがい、排泄を済ませたり、水分補給したりできるように言葉かけをする。 ○ 子どもたちの様子を見ながら、準備ができるように促していく。 ○ 子どもたちが配膳できるおかずは、配膳する量を教える。 ○ 残さずに食べることができるようにおかず等の量においては、一人一人に応じて配慮する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「今日もお山を作ろう」「水を汲んでこよう」と、昨日の遊びの続きが始まった。水を投入することで掘りやすくなり、大きな山や池ができてきた。遊びながら砂や水の性質に気付いてきている。また、友達と一緒に山作りをする等、自然に友達との関わりを楽しみようになってきている。
13:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 好きな遊びをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育者も一緒に拭き掃除をしながら、雑巾の絞り方や床の拭き方を教える。 	
13:55	<ul style="list-style-type: none"> ○ 片付け、手洗い、うがいを ○ する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 明日の遊びに期待をもつことができるように話を 	
14:25	<ul style="list-style-type: none"> ○ 降園の準備をする。 ○ 帰りの会をする。 ○ 降園する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保護者に園での子ども様子を伝えたり、家庭での子ども様子を聞いたりする。 	

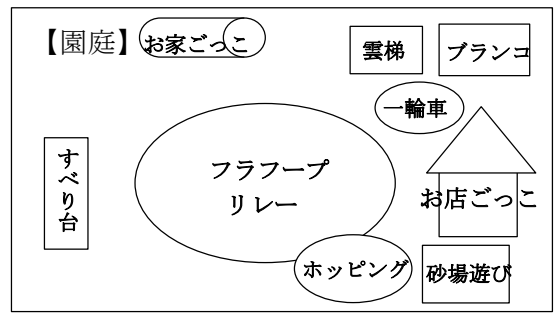
(2) 保育指導案

- 1 日 時 平成29年5月17日(水)
- 2 今日の遊び「たのしそうだな やってみよう」
- 3 本時のねらい
(年長) ○ 自分の思いを友達に伝えたり、相手の思いを聞いたりしながら、遊びを進めていく。
(年中) ○ 自分の好きな場や遊具で遊ぶことを楽しむ。
- 4 今日一日の流れ ⑤ 年長 ④ 年中

登園する あいさつ 持ち物の片付け 野菜の水やり	
8:40 排泄 手洗い	
9:00 朝の会	
9:10 絵本タイム	
9:30 好きな遊びをする	
10:20 片付け 手洗い うがい 排泄	
10:40 クラスの活動	
11:30 給食の準備	
11:40 給食 片付け 歯磨き 掃除	
13:20 本時 「たのしそうだな やってみよう」	
13:55 片付け 手洗い うがい 降園準備 帰りの会	
14:25 降園する	

【遊具で遊ぶ】⑤ ※(1)(2)
(雲梯・ホッピング・一輪車・フラフープ)
○ 自分がどこまでいけるか、友達と一緒に挑戦する。
☆ 挑戦している姿を認め、励ましたり、できた喜びを共感したりする。

【お家ごっこ・お店ごっこ】④ ※(3)(9)(10)
○ トレーやカップ、ペットボトル、砂や木の枝、草花を使ってごちそうを作る。
○ 売り買い言葉で友達や保育者に声を掛けて、お店ごっこをする。
☆ 工夫して作ることができるように、いろいろな容器や自然物を分類して置いておく。
☆ 保育者もお客さんになって一緒に楽しみながら、それぞれが工夫しているところを認める。
[カップ・トレー・ペットボトル・草花・テーブル・ベンチ]



- 予想される子どもの姿
- ☆ 援助のポイント・環境構成
- ※ 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

【スケーターで遊ぶ】④ ※(1)
○ 友達と一緒に走ったり、競争したりする。
○ お家ごっこやお店ごっこに参加する。
☆ 風をきって走ることや工夫して遊ぶことの面白さに共感する。
☆ 他の子どもたちの遊びの様子を見ながら安全に遊ぶことができるように必要に応じて、走る場所を知らせる。

【リレー】⑤ ※(1)(3)
○ 友達と相談してグループを作る。
○ 友達と一緒に力いっぱい走り、リレーを楽しむ。
○ 友達が走る姿を見て応援する。
☆ 必要な用具を子どもたちが準備したり、片付けしたりできるように用意しておく。
☆ 保育者も一緒に走ったり、応援したりして頑張っている姿を認め、思い切り体を動かして遊ぶ楽しさを味わえるようにする。
☆トラブルが起きたり、ルールについて話し合ったりする時は、保育者も一緒に考え助言する。
[バトン・はちまき・ライン引き]

【砂場遊び】④⑤ ※(2)(6)(9)(10)
○ 穴を掘ったり、山を作ったりする。
○ 山の上から水を流し、砂の変化を試したり、楽しんだりする。
○ 砂の感触を楽しみながら、団子やお寿司を作る。
○ 型抜きやカップなどの道具を使って、ケーキやプリンを作る。
☆ じっくりと自分のペースで遊べるように用具は多めに用意しておく。
☆ 保育者も一緒に遊び、楽しさを共感する。
☆ 繰り返し試したり、友達と一緒に工夫したりする姿を認める。
[シャベル・スコップ・バケツ・ふるい・カップ・ペットボトル]

5 評価

- (年長) ○ 自分の思いを伝えたり、相手の思いを受け入れたりしながら、遊びを進め楽しめたか。
- (年中) ○ 自分の好きな遊びや場に関わって遊び、安心して過ごすことができたか。
- (保育者) ○ 友達の良さを認め合い、遊びが広められるような言葉かけや援助ができたか。
○ 自分の好きなことを見つけて遊ぶことができるような環境構成や一人一人の興味・関心に寄り添うことができたか。

(3) 実践を通して

～ 子どもたちが興味・関心を抱き、主体的に関わる姿 ～

＜草花を使ってままごと遊び・ジュース作り＞



桜の花びらやオオイヌノフグリでご飯作り。楽しいね！



ギシギシを摘んでご飯炊き。オオキンケイギクをトントン切ってスープやカップケーキ作り。お料理楽しいね！



年少組のお客さんがきました。「いらっしゃいませ」「カップケーキく



葉っぱをすりつぶすと、抹茶ジュースができたよ！



年少組さんにも抹茶ジュースの作り方を教えてあげたよ。



オオキンケイギクをペットボトルに入れてシェイクするとオレンジジュースになったよ。

＜せっけんクリーム作り＞



せっけんをすりおろし、水を入れてシャカシャカ泡立てたよ！「バニラアイスです。どうぞ」



＜リレー＞



ファミリー運動会で経験したリレーを友達と一緒にしたよ。バトンをつないで走るのが楽しい！年長児を見ていた年中児もバトンをもってよいドン。



＜砂場遊び＞



山やトンネル、川や池。うまく流れるように何度も水を流したり、掘ったりしたよ。いつの間にか異年齢で力を合わせて遊んでいたよ。



大きい組さんみたいに大きな池を掘り始めた年少児。

＜サーキット遊び＞



迷路遊びからサーキット遊びに発展！毎日いろいろなコースにチャレンジする年長児。ぼくたちもやってみたくて年中児もいろいろなコースを作ってチャレンジ！



＜お祭りごっこ＞



子どもが獅子を持ってきたことや地域で太鼓打ちの練習を始めた子どもたちの話からお祭りごっこが始まった。段ボール箱等を使って、太鼓やバチ作り。鐘や獅子舞の効果音などを子どもたちと相談しながら準備。友達と一緒に獅子舞を楽しんだよ。



＜お店屋さんごっこ＞



子どもが持ってきたドングリでケーキ作り。そこから、お店屋さんごっこが始まった。年長児のお店屋さんへ招待されて、年少組もお店ごっこが始まった「いらっしゃいませ」と、友達と売り買い遊びをするのが楽しい。



5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】○ 子どもたちが主体的にかかわりたくなるような環境構成や援助につなげていくために、幼児理解が大切であることから、改めて指導計画や記録について見つけ直すことに取り組んだ。この取り組みを通して、一日の子どもの姿を振り返る視点がとても大切であること、また、心に留めたことや感動したことなどを写真とともに記録し、掘り下げて考えることで、子どもの育ちや内面理解につながることに気付いた。

【課題】○ 子どもたちの姿を担任一人ではなく、全保育者で捉えるように取り組んできたが、まだまだ十分とは言えない。子どもが遊びの中で経験していること等をより多くの目で見つめ、丁寧に読み取っていくことができるように担任以外の保育者も記録を取ったり、環境構成の様子を共有したりできるようにさらに工夫していくことが課題である。

善通寺市立西部幼稚園

1 本園の教育

【教育目標】

やさしい心と やる気を持ち ひとり立ちのできる子どもを育てる

【めざす子ども像】

- 自然や動植物とのふれあいを喜ぶ子ども
- 意欲をもって運動遊びに取り組む子ども
- 友達や地域の人とのかかわりを喜ぶ子ども
- 自分で考え工夫して遊ぶ子ども
- 自分のことは自分でしようとする子ども

【教育方針】

- 地域の自然や人々とふれあう中で豊かな感性や思いやりの心を育てる。
- 幼児自ら環境に働きかけ、遊びに取り組む中で考える力や意欲を育てる。
- 望ましい生活習慣や態度の育成に努め、ひとり立ちの基礎づくりをする。
- 幼小中との連携を深め五訓の共通理解をし、自己有用感の育成に努める。

2 園児数

平成30年1月9日現在

年齢	3歳児	4歳児	5歳児	合計
クラス名	もも	あか	き	
幼児数	13	19	22	54



3 特色ある教育活動

自然との遊び

- 自然との遊び
 - ・自然物採集
 - ・試し遊び
 - ・虫捕り・れんげ摘み
 - ・寺院・史跡めぐり
- 飼育栽培活動
 - ・小動物の世話
- ★親子で野菜栽培
 - ・花の栽培

つよい体づくり

- 運動遊び
 - ・一輪車・竹馬
 - ・フラフープ
 - ・縄跳び・鬼遊び
 - ・かけっこ・リレー
 - ・スケーター・ボール
 - ・楽しい運動遊び
- 運動会
- がんばり大会

考え工夫する遊び

- 工夫遊び
 - ・凧作り
 - ・ドミノ遊び
 - ・こま回し など
- 製作遊び
- 仲よし遊び
- ★ごっこ遊び
 - ・集団遊び

人とのかかわり

- 同年齢・異年齢のふれあい
- ★ペア活動
 - ・誕生会・みんなの集い
 - ・お楽しみ会・発表会
 - ・修了お祝い茶会
- 祖父母とのつどい
- ★親子読書
 - ・絵本の読み聞かせ
- ★小学生との交流
- 地域とのふれあい
- ★独居老人宅への花配り
- ★もちつき大会
 - ・公民館まつり参加
 - ・楽しい文字・音楽遊び

29年度の実践について

(★印は今年度見直し重点的に行った取組)

家庭や地域、小学校との連携や交流を行い、人とのかかわりを深め、豊かな心を育てる活動に取り組んだ。

4 実践事例

平成 29 年 11 月 30 日(木)

年長 日案

男児 12 名 女児 10 名 計 22 名

(1) 日案

時間	幼児の活動	指導上の留意点及び保育者の援助
8:30	○ 登園 ・持ち物の片付け ・自らかかわる遊び	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人と笑顔であいさつをし、健康状態を把握する。 いろいろな遊びができるよう、環境を整え、材料を準備しておく。 友達とかかわりながら好きな遊びを楽しめるように援助する。
9:00	○ おはようタイム ・朝の会	<ul style="list-style-type: none"> 当番活動を見守りながら、落ち着いて参加できている姿を認める。
9:30	○ 望ましい体験活動 ・ドッジボール ・一輪車遊び ・なわとび 等	<ul style="list-style-type: none"> 戸外で体を動かして遊ぶ楽しさを感じられるようにする。 ルールを守って遊びを進められるよう見守り、がんばっている姿を認める。
11:30	○ 給食 ・給食の準備・運搬・配膳 ・楽しく食べる ・後片付け・掃除	<ul style="list-style-type: none"> 準備・配膳など自分たちで進める姿を受け止め、落ち着いて行動できるように声をかける。 マナーに気を付け、よく噛んで食べるように声を掛ける。
13:20	○ 今日の保育 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自らかかわる遊び (次ページに記載)</div>	
14:00	○ 降園準備 ・帰りの会	<ul style="list-style-type: none"> 今日の楽しかったことを話し、明日へ期待をもって降園できるようにする。
14:30	○ 降園	

(2) 保育指導案 (自らかかわる遊び)

1. 場 所 保育室
2. 題 材 「うどんやさんをオープンしよう」
3. ねらい ○ うどんやさんごっこを通して、友達と一緒に遊びに必要な物を考えて作ったり、工夫したりして取り組み、ごっこ遊びの楽しさや充実感を味わう。
4. 保育を通して育つと思われる「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」について
 - (2) 自立心 (3) 共同性 (5) 社会生活との関わり
 - (8) 数量・図形、文字等への感心・感覚 (9) 言葉による伝え合い
 - (10) 豊かな感性と表現

5. 内容

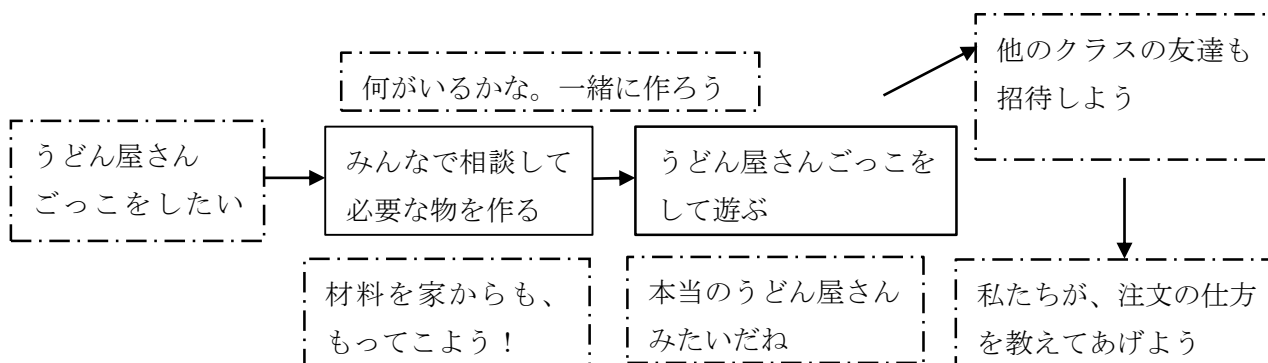
時間	幼児の活動	指導上の留意点	準備物
13:20	○ 今日の遊びの話聞く。 ・ うどん屋さんごっこをすることに期待をもつ。	○ 今までの活動の話をし、今日の活動に期待がもてるようにする。 ○ みんなで協力してうどん屋さんの準備ができるように声をかける。	・ はさみ ・ ガムテープ ・ セロハンテープ
13:25	○ 制作途中のメニュー表や、お盆、お金などを作る。 ・ 友達とイメージを伝え合い相談しながら作っていく。	○ 子どものイメージを大切にし、うどん屋さんに必要な物が作れるように材料を用意したり、一緒に考えたりする。 ○ 作った物や工夫したところを知らせ、うどん屋さんが完成していくことを喜び、遊びに期待がもてるようにする。	・ 新聞紙 ・ 廃材 ・ ボール紙 ・ とりのこ用紙
13:45	○ うどん屋さんとお客さんに分かれて遊ぶ。 ・ うどん屋さんになりきって、うどんを作ったり、接客をしたりする。 ・ うどんの注文をし、お金を払ったり、食べたりする。	○ 役割分担をして、イメージを膨らませなりきって遊んだり、うまくできた充実感や楽しさを味わったりする。 ○ 困ったことやトラブルがあれば、子どもと共に解決に努め、友達と意見を出し合う姿を認めたり、ヒントを出したりする。また必要に応じてクラス全体に知らせ、みんなで考える場にもしたい。	・ うどん ・ 具材 (きつね・わかめ・かまぼこ・ねぎなど) ・ おにぎり ・ 寸胴鍋
13:55	○ 片付けをする。	○ 明日もうどん屋さんごっこで遊びたいという思いを大切にし、みんなで協力して片付けられるようにする。 ○ 今日の活動を振り返り、明日の活動に期待がもてるように話をする。	・ お皿 ・ ざるなど

6. 評価

- 遊びを通して充実感を味わい、うどん屋さんごっこをより良くするために考えて作ったり、工夫したりすることができたか。

7. 遊びの流れ

□□□□ ・ ・ 年長児の思い



(3) 実践を通して

子どもたちは、それぞれにイメージをもち友達と相談しながら作ったり、完成した物を満足そうに見せ合ったりしていた。うどん屋の形態が出来上がっていくと自然にうどん屋さんごっこが始まり、遊びを通して「温かいうどんと冷たいうどんを選べるようにしよう」「レジのおつりの渡し方はこうしよう」など次々にアイデアを出し、自分たちで工夫したり、協力したりする姿が見られるようになった。遊びはその後も続き、遊びが深まるにつれて、普段から誕生会やペア活動で遊んでいる異年齢児を招待したいという気持ちが強くなった。そこで、クラスで相談し、異年齢児もイメージがもちやすいようにメニュー表と招待状をもって誘いに行くことにした。一緒に遊ぶことで、年少・年中児は、年長児に対して優しくされた喜びを感じ、親近感や憧れの気持ちが強くなった。また、年長児は自分たちの作った物を認めてもらったり、楽しそうに遊んでいる様子を見たりすることで満足感を感じ、年長児としての自信にもつながっていったと感じた。



5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 保育者は保育内容や実践方法、環境等について、保育者間で話し合う機会が増え、子どもにとって必要な遊びや価値ある活動を意識して取り組むようになってきた。また、保育者間で些細なことも相談したり、思いや考えを共有したりできるようになってきた。そして、互いの保育を理解したり、自分の保育を考え、見直しをしたりするきっかけになった。
- 今までは、クラス単位で同年齢の活動に取り組むことが多かったが、異年齢の遊びやペア活動を積極的に取り入れ、園全体で子どもにかかわることで子どもの姿を客観的に捉え、一人一人の良さを見つけ、幼児理解につながった。

【課題】

- アドバイザーや教育委員の方々に保育者としての姿勢や保育の方向性、子どもへのかかわり方などご指導いただき、自分の保育を振り返り、それぞれの課題が明確になった。また、その課題についても個人のものだけにせず、園全体の研修として深め、保育者の資質向上に努めたい。
- 他の幼稚園や保育所の参観などに積極的に参加することが望ましいが、人員や行事などの関係で難しい。保育者が参加しやすい体制の工夫が必要である。

善通寺市立南部幼稚園

1 本園の教育

【教育目標・のぞむ幼児像】

- 心豊かで生き生きと活動する幼児を育てる。
 - ・自分のことが自分でできる子ども
 - ・きまりや約束をまもる子ども
 - ・思いやりのあるやさしい子ども
 - ・最後までがんばる子ども

2 園児数

平成30年 1月 9日現在

年齢	年少	年中	年長	合計
クラス名	もも	さくら	ゆり	
幼児数	14	30	20	64

3 特色ある教育活動



4 実践事例

事例 1 . . . 年長 ゆい組 日案・指導案

(1) 日案

- 1 日時 平成29年6月7日(水)
- 2 場所 保育室及び園庭
- 3 ねらい ○ 自分の思いや考えを相手に伝え友達と一緒に遊びを楽しむ。
- 4 日程と内容

時間	幼児の活動
8:30	○ 登園する ○ 思い思いの遊びをする。 ・かけっこ遊び、一輪車、生き物に触れる、水やり ・竹馬 等 ・片付けをする。
9:40	○ 朝の会をする。 歌「カエルの歌」ほか お休み調べ
11:00	○ カエルランドを作る。 ・材料集めをする。 ○ 給食タイム。 ・準備 ・給食(BGM) ・当番活動 ・後片付け
13:20	<div style="border: 2px solid red; border-radius: 50%; padding: 10px; display: inline-block; color: red; text-align: center;"> <p>〈異年齢交流〉 カエルランドで遊ぼう！ 保育指導案 右記参照</p> </div>
14:05	○ 帰りの会をする。 ・1日の振り返り ・言葉遊び など
14:30	○ 降園する。

- 5 評価 ○ 自分の思いや考えを相手に伝え、友達と一緒に遊びを楽しめたか。

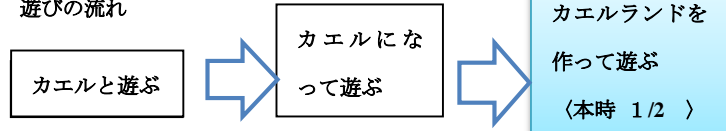
(2) 保育指導案 (年長・年中保育室・廊下で異年齢交流)

対象児 男児7名 女児13名 計20名

共通題材・カエル

- ① 題材 カエルランドを作って遊ぼう！(異年齢交流)

- ② 遊びの流れ



- ③ ねらい ○ 年中児や友達と一緒に話し合ったり、協力したりして遊びを進めていく楽しさを味わう。

④ 内容

幼児の活動	環境構成及び援助のポイント 〈抜粋〉
1 自分の作りたいものを決める。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 午前中の活動の続きが進められるように話したり、見通しがもてるよう終了時間を伝えたりしておく。 ○ <u>自分たちで話し合いながら材料を選んだり、イメージを膨らませたりしていけるように、「材料コーナー」に必要だと思う材料を子どもたちと一緒に集めておく。</u> ○ 年中児と楽しく交流できるように、普段の遊びの中で関われる機会を多く持つようにしておく。
2 年中児や友達と一緒に話し合っ て作る。 ・遊び場 ・家	<ul style="list-style-type: none"> ○ <u>どんなものを作りたいか、何を使って作りたいのか年中児や友達とのやりとりを通して、自分のイメージに近いものを作れるよう援助していく。</u> ○ <u>廊下には両保育室の行き来を意識が途切れないよう、遊びながら移動出来る場を設置しておく。</u>
3 今日の遊びについて振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 保育者も遊びの輪の中に入り、<u>一緒に遊びを楽しむこと</u>で満足感が感じられるようにする。 ○ <u>子どもたちの声に耳を傾け、頑張ったことや工夫した事などを聞き、達成感が味わえるようにする。</u>

- ⑤ 評価 ○ 年中児や友達と一緒に話し合ったり、協力したりして遊びを進められたか。

事例 2 . . . 年中 さくら組 日案・指導案

(1) 日案

- 1 日時 平成29年6月7日(水)
- 2 場所 保育室及び園庭
- 3 ねらい ○ 保育者や友達と一緒に工夫しながら作ったり遊んだりすることを楽しむ。
- 4 日程と内容

時間	幼児の活動
8:30	○ 登園する ・ 元気にあいさつをする。 ・ 荷物の片付けをする。 ・ トマトや朝顔の水やりをする。
9:00	○ 園庭で遊ぶ。 ・ 遊具、砂場等
9:40	○ 朝の会をする。
10:00	○ <u>カエルになりきって遊ぶ。</u> ・ <u>歌をうたう。</u>
10:30	○ <u>カエルランド作りをする。</u> ・ <u>材料集めをする。</u>
11:00	○ 給食の準備をする。 ・ 配膳、給食
12:50	・ 片付け、歯磨き ・ 掃除をする。
13:20	<p style="text-align: center;">(異年齢交流) カエルランドで遊ぼう! 保育指導案 右記参照</p>
14:10	○ 帰りの会をする。 ・ 手遊びをする。 ・ 絵本を見る。
14:30	○ 降園する。

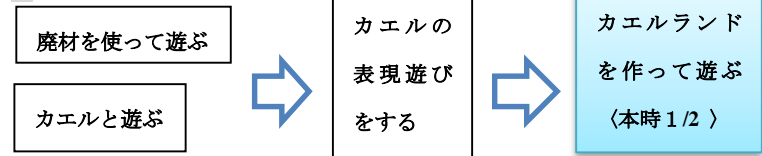
- 5 評価 ○ 保育者や友達と一緒に工夫しながら作ったり、遊んだりすることを楽しめたか。

(2) 保育指導案 (年長・年中保育室・廊下で異年齢交流)

対象児 男児11名 女児19名 計30名

- ① 題材 カエルランドを作って遊ぼう (異年齢交流) 共通題材・カエル

- ② 遊びの流れ



- ③ ねらい ○ 年長児や友達と一緒に作ったり、作ったもので遊んだりすることを楽しむ。

- ④ 内容

幼児の活動	環境構成と援助のポイント (抜粋)
1 午前中の活動を振り返りながら、自分の作りたいものを決める。	○ 子どもたちに静かに話が聞けるように、手遊びをしてこちらに興味を示すようにする。 ○ カエルランドでの遊び方やルールを年長児と共に決めておき、保育者も理解しておく。 ○ 子どもたちが安全に遊べるように年長組の保育者との話し合いを密にしておく。
2 年長児と一緒にカエルランド作りをする。 ・ カエルの家を作る。 ・ あそび場を作る。 ・ お店屋さんごっこをする。	○ <u>遊びの場に入れないうちには保育者が友達のところに一緒にいき、遊びの中に入る手助けが出来るように援助する。</u> ○ <u>遊びの中でトラブルになった時は、自分の思いを伝えたり、相手の気持ちを受け止めたり、自分たちで解決するように、見守りながら必要に応じて言葉を添えていく。</u> ○ <u>まだ作っている子のために製作するスペースは片付けず、そのまましておく。</u>
3 今日の遊びについて振り返り、話し合う。	○ 子どもたちと今日の遊びについて楽しかったことやうれしかったことの話し合いができるような雰囲気作りをする。
4 片付けをする。	○ <u>明日も遊びがすぐに始められるように作ったものはそのまま置いておくように伝える。</u>

- ⑤ 評価 ○ 年長児や友達と一緒に作ったり、作ったもので遊んだりしながら遊びを楽しむことができたか。

(3) 実践を通して

- 今回の異年齢交流の共通題材が幼児の興味関心が強いカエルであったため、各クラスでのそれぞれの遊びの意識や学びなどをつなげやすく、交流も大きな遊びへと発展していったと感じた。
- 年中児は、1回目の交流では年長児の姿を見て作ったり、遊んだりする子が多かった。しかし、2回目の交流からは、自分たち自身で「何を作るのか」「何をして遊ぶのか」を考えるようになり、保育者の援助が必要な場面もあったが自分たちなりに考えて遊びを進めていけるようになっていった。
- 午前中は、各クラスでカエルになって遊んだり、友達と一緒にカエルランドづくりの材料集めをしたりして活動や思いはそれぞれ違っていたが、午後の交流では、カエルの家や遊び場を作ろうという共通意識をもつことができ、異年齢で話し合ったり、協力したりして遊びを楽しむ姿がたくさん見られた。
- 今までの異年齢交流は気の合う友達との遊びが主流が多かったが、交流を重ねるうちに自分がしたいと思う遊びをすることが新しい友達とのかかわりにもつながり、友達関係に広がりを見せ始めてきた。
- 今、幼児が何を楽しんでいるのかはよく見るが、困っていることはあまり見れていないと感じ、困っていることも丁寧に見ていくと、その活動がより深まっていくと気付いた。

5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

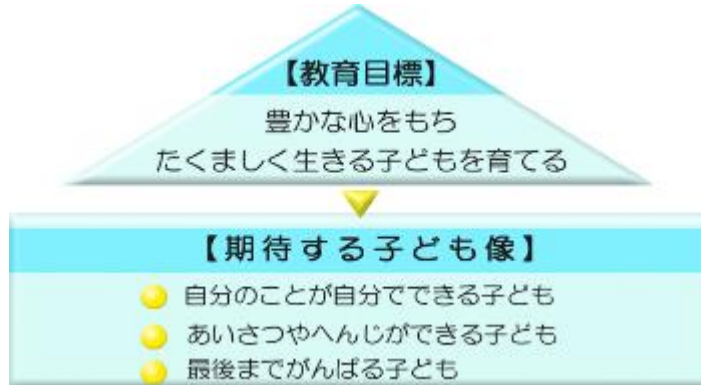
- 同じ小学校区である私立の南部保育所とは、幼児、保育者ともほとんど交流することがなかったが、幼児教育推進体制構築事業で保育所・幼稚園との相互参観する機会に恵まれ、お互いの保育を見ることで理解を深め、本年度より幼保連携をスタートさせることができた。
- 若年保育者には、昨年引き続き他園の保育を参観したことで、指導案の書き方や保育の中での支援の仕方、環境構成など多くのことを学ぶことができた。

【課題】

- 幼稚園訪問時の相互参観だけでは、行事などで時間がとれなかったり、短時間の参観だけに終わったりするので、できれば市内の保育所（園）・幼稚園・小学校の職員が集まり研修をする回数をもっと増やしてほしい。

善通寺市立竜川幼稚園

1 本園の教育



2 園児数

平成30年1月9日現在

年齢	3歳児				4歳児			5歳児			合計
学級名	もも	ちゅうりっぷ	さくら	計	たんぽぽ	ひまわり	計	ゆり	すみれ	計	
園児数	19	18	19	56	27	26	53	33	32	65	174

3 特色ある教育活動



4 実践事例

(1) 日案 平成29年6月29日(木)

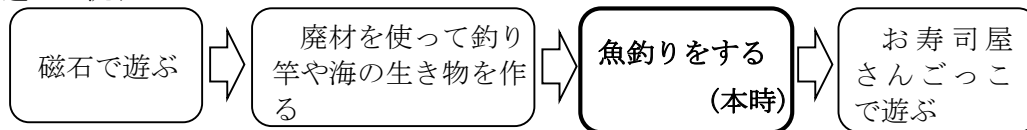
○ 年中組 男児15名 女児12名 計27名

時間	幼児の活動	○援助のポイント ★環境構成
7:20～ 8:30	○ 登園 ・ 挨拶をする。 ・ 身の回りの片付けをする。 ・ 夏野菜の水やりをする。	○ 一人一人笑顔で迎え、目を見て挨拶を交わし、体調を把握する。 ★ 水やりができるようジョウロ、タライなど必要なものを用意しておく。
8:40	○ おはようタイム ・ 出欠調べをする。 ・ 歌を歌う。 「かえるの合唱」 「あめふりくまのこ」他 ○ 絵本タイム ・ 好きな絵本を選んで見る。	○ 野菜の生長や変化の気付きに共感したり、収穫する喜びを味わわせたりする。 ○ 当番の友達の進行に協力しようとする姿勢を認め、スムーズに進められるように見守る。 ○ 友達と声や気持ちを合わせながら、伸び伸びと歌う心地よさが感じられるようにする。
9:20	○ 好きな遊び <室内で> ・ 積み木やブロックで遊ぶ。 ・ 廃材や広告紙で遊ぶ。	○ 静かに落ち着いた場になるように配慮し、自分の姿勢を意識して正せるように言葉かけをする。 ○ 遊びの仲間に入り、興味の方角や友達との関係を把握する。 ★ 友達の遊びの様子を伝えたり、ヒントを示したりして、遊びがより発展するように働きかけたり、廃材やテープ類など必要な材料を状況に応じて投入したりする。
10:30 ～ 11:10	「魚釣りをしよう」 <次ページに記載>	
11:20	○ 給食 ・ 自分達で配膳をする。 ・ 給食を食べる。 ・ 片付けをしたり、掃除をしたりする。	○ 苦手なものもがんばって食べようとする姿を具体的にほめ、食事に意欲がもてるようにかかわっていく。 ○ 落ち着いた雰囲気の中で配膳ができるよう声を掛け、保育者自らが手本となるようにする。 ○ 食事の量は自分で意思表示をして加減できるように言葉かけをしたり、一緒に食事しながらマナーを伝えたりしていく。
13:20	○ 好きな遊び <戸外で> ・ 一輪車乗りをする。 ・ 虫探しをする。 ・ 砂場で遊ぶ。	○ 運動に挑戦する姿を認め、励ましたり、手伝ったりして、あきらめずに取り組めるようにする。 ○ トラブルの際には、経緯やそれぞれの気持ちを十分に聞き、状況が受け止められるように丁寧に説明して分かり合えるようにする。 ★ 全身を使って砂や水、泥の感触を楽しめるように大きいスコップやバケツ、水を溜めたタライなどを用意しておく。
14:00	○ なかよしタイム ・ 紙芝居を見る。 ・ 帰りの会をする。	○ 帰りの準備をし、落ち着いてなかよしタイムに入れるよう日々の習慣づくりをする。 ○ 一日を振り返る発表の時間をもち、楽しかった遊びを話し、明日の遊びに期待をもたせる。
14:30	○ 降園する。	○ 一日の遊びの様子や体調など、保護者やアフタースクール指導者に伝え連携を図る。


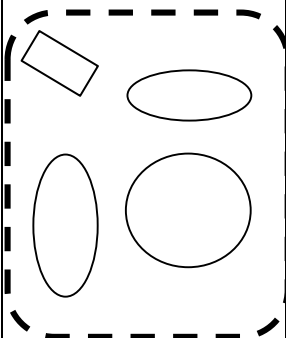
(2) 保育指導案

<魚釣りをしよう>

- ねらい 自分の作った釣り竿や魚で、友達と一緒に魚釣りをすることを楽しむ。
- 遊びの流れ



○ 活動内容

時間	幼児の活動	○援助のポイント ★環境構成	環境
11:00	○ 保育者の話を聞く。 ・ 手遊びをする。 「いわしのひらき」 ・ お魚くんからの手紙を聞く。	○ 今からの活動に興味をもてるよう手遊びをして楽しい雰囲気づくりをする。 ★ お魚くんからの手紙を読み聞かせ、魚釣りに期待をもたせる。 ○ 集中して話が聞けるよう保育者の声の強弱をつけて話すよう心かける。 ★ 魚釣りが楽しくなるよう、ダンボールやカラーポリ袋で池を用意しておく。 ○ 魚釣りをする時の約束を伝え、ルールを守って取り組めるようにする。	・ 廃材で作った魚 (トレイ、空き箱、ポリ袋、厚紙、ペットボトル、) ・ 廃材で作った釣り竿 (新聞紙、広告紙、タフロープ)
11:10	○ 魚釣りをする。 	○ 池の設置状況は、安全面への配慮を心かける。 ○ 楽しく魚釣りをする様子を見守ったり、釣ることが難しそうなお子も、友達とトラブルになっている子どもには、そばに行き適切な声かけをしたりする。 ○ 発想の面白さを認め、自分なりに釣った魚をどうするか工夫しながら遊ぶ楽しさが味わえるように共に考えたり、手助けしたりする。 ○ くつつく、くつつかないなど、磁石の性質に気付き、上手に釣っている様子をほめ、周りの友達に広げていく。 ○ 友達と力を合わせたり、協力したりしながら楽しく取り組んでいるか見守る。	・ ダンボール ・ クリップ ・ カラーポリ袋 ・ 磁石 ・ タライ 
11:30	○ 遊びを振り返って話をする。	○ 「楽しかった」「またしたい」という気持ちを大切に、子どもたちの話し声や表情を見ながら共感するとともに、明日への期待や意欲へとつなげていく。	○ : 魚がいる池 □ : ピアノ
11:40	○ 片付けをする。	○ 友達と協力しながら、最後まで片付けるよう見守る。	

- 評価 友達と一緒に、自分の作った物で魚釣りを楽しむことができたか。

(3) 実践を通して

- 自分達で作った物で遊ぶことに楽しさを感じ、廃材で様々な物を作って遊ぶようになった。今回の「魚釣り」でトラブルが起こらなかったのは、一人一人が遊びに楽しく取り組めていたからだ考える。
- 「物を大切にしよう」と言葉で伝えるが身に付かない。保育者自身が物を大切にする姿を見せることで、保育者を見て、真似て学び、大切に扱うようになった。
- 保育者の声を「個」や「集団」など話す場面に合わせて、視覚に訴えるパペットを使ったりすることで、より一層、話を聞こうとする力が身に付いたように思う。



5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 香川県幼児教育スーパーバイザーによる指導・講話をいただき、幼児の学びの読み取りや幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿を通しての環境構成の振り返りができたことで、職員の資質向上につながった。また、2年間、同じ指導者に訪問いただき、施設の実態や幼児の姿を踏まえた上での指導は有意義なものになった。
- 保育者が幼児の活動の場面において、果たす役割について視点を明らかにして、具体的に話していただき、特に若年保育者は今後の課題が明確になった。そのことで、保育者自身のことや幼児のことが分かり毎日の保育が楽しくなった。
- 今年度、他園（3園）の参観をした。身近な園の実践を参観し、題材が同じでも環境構成の違いで様々な遊びや幼児の姿に出会うことができ、よい学びの機会になった。この学びを園内研修で共有することで、保育者全体の視野が広がる機会となった。

【課題】

- 施設が狭く、園児数の多い園であり、時間、空間、遊具などの確保の工夫に試行錯誤している現状である。園の現職教育のテーマに基づき、要点をしぼった専門的、具体的アドバイスをいただける場になるとより研修が深まったように思う。
- 今年度は、学年別に指導・講話をいただいたが、若年保育者は、それに加え、短時間でも個人指導の場を設けてほしいという意見があったので、指導の受け方を工夫していきたい。

善通寺市立与北幼稚園

1 本園の教育

【教育目標・めざす子ども像】
やさしい心もち、たくましく生きる子どもを育てる

- ・ 身の回りのことは自分でする子
- ・ 自分大好き・友達大好きな子
- ・ 友達と一緒に遊ぶ元気な子



- 自立心
- 社会生活との関わり
- 豊かな感性と表現
- 自然とのかかわり・生命尊重
- 道徳性・規範意識の芽生え
- 協同性
- 数量・図形、文字等への関心・感覚
- 思考力の芽生え

健康な心と体
言葉による伝え合い

幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿

2 園児数

平成30年1月9日現在

年 齢	年 少	年 中	年 長	合 計
クラス名	も も	う め	さくら	
園 児 数	0	2	6	8

3 特色ある教育活動

- なかまと遊ぶ力を
 - ・ チャレンジ遊び・運動遊び
(竹馬・なわとび・ボール遊び など)
 - ・ ごっこ遊び ・ 伝承遊び
 - ・ 製作・発表会 ・ リズム遊び など
- 自然の中で感動体験を
 - ・ ふるさと散歩(鉢伏公園・レンゲ畑・東原児童公園 など)
 - ・ 飼育栽培活動(ウサギ・金魚・カブトムシ・めだか など)
- 社会で生きる態度を
 - ・ あいさつ ・ 身のまわりの清潔 ・ 係り活動 など
 - ・ 徒歩通園(毎月第3週)
- 家庭・地域との連携を
 - ・ 保護者学級(ミニ運動会・竹馬づくり) ・ 家庭訪問 ・ 学級懇談会 ・ 個人懇談会
 - ・ 親子読書 ・ 幼小合同運動会 ・ 小学生との交流活動(餅つき・読み聞かせ など)
 - ・ いものつるさし ・ いもほり ・ ファミリー夏まつり ・ 公民館まつり
 - ・ 白百合荘訪問 ・ 未就園児とのつどい ・ 絵本の読み聞かせ など



豊かな体験活動を

4 実践事例

(1) 日 案

年中児 男児 2名


年長児 男児 4名 女児 2名 計 8名

1 日 時 平成29年6月6日(火) 8:40~14:30

2 場 所 園庭 及び 保育室

3 ねらい ○ 友達と一緒に好きな遊びをしたり、活動したりすることを楽しむ。

4 日程及び内容

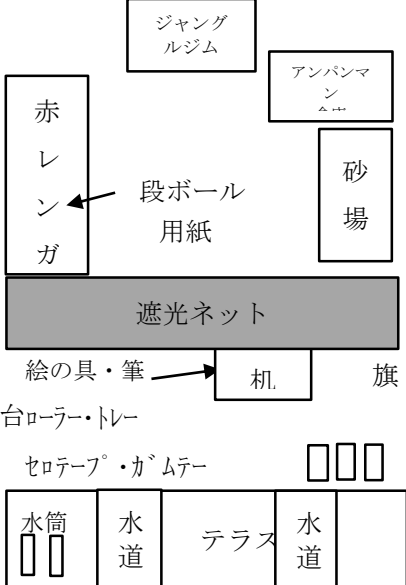

時間	幼児の活動	教師の援助
8:40	<ul style="list-style-type: none"> ○ 登園する。 ○ おはよう当番をする。 ○ 水やりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一人ひとりと笑顔で挨拶を交わし、健康状態を把握する。 ○ 年長児の当番と一緒に、登園してきた子に元気よく挨拶をする。 ○ 野菜の生長への気付きを大切に、収穫を楽しみにしながら水やりができるように言葉かけをする。 ○ 怪我のないように見守りながら、保育者と一緒に遊び、楽しさを共感する。
9:20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 朝の会をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 歌を歌う。 ・ 欠席調べをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 元気よく挨拶をしたり、楽しく歌ったりできるよう助言する。 ○ みんなが元気に来たことを喜び合ったり、休んでいる子がいたら「明日は元気に来るといいね」と言葉かけをしたりするなど、友達を思いやる心が育つようにする。
9:30	<ul style="list-style-type: none"> ○ 製作活動をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自分でやり遂げる喜びが味わえるように一人ひとりにあった援助をする。
11:15	<ul style="list-style-type: none"> ○ 給食の準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ トイレに行き、エプロンを着る。 ・ 給食を配膳する。 ・ 給食を食べる。 ・ 片付けをする。 ・ 絵本を読む。 ○ 掃除をする 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当番を中心に子どもが進んで並んだり給食を取りに行ったりできるように言葉かけをする。 ○ エプロンを着るのに困っている子がいたら、自分でできる達成感が味わえるように援助する。 ○ 食器を人数分出すことで、数に親しみがもてるようにする。 ○ 目標時間を決めて子ども達に伝え、頑張っって食べようという気持ちをもてるようにする。 ○ 上手に読んでいる子を褒めたり、保育者と一緒に読んだりして楽しく絵本に触れるようにする。 ○ 進んで掃除したり、上手に雑巾掛けしている子を褒めたりして意欲的に掃除ができるようにする。
13:20	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「絵の具で遊ぼう」 次ページに記載 	
14:10	<ul style="list-style-type: none"> ○ 降園準備をする。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 帰りの会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 今日の一日を振り返り、楽しかったことや友達の良い所を伝え合い、楽しさを共感したり、満足感を感じたりできるようにする。 ○ 明日の活動予定を知らせることで、期待感をもって登園できるようにする。

5 評価 ○ 友達と一緒に好きな遊びをしたり、活動したりすることを楽しめたか。

(2) 保育指導案

- 1 日時 平成29年6月6日(火) 13:20~14:10
- 2 対象児 年中児 男児2名 年長児 男児4名 女児2名 計 8名
- 3 場所 園庭
- 4 ねらい<年中児> ○ 絵の具の感触を楽しんだり、様々な道具を使って描く楽しさを味わったりする。
○ 感じたことを体や言葉で表現しながら、楽しむ。
<年長児> ○ 自分の思いを言葉で伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら、友達と一緒に遊ぶ楽しさを味わう。
○ 試したり、工夫したりしながら描くことを楽しむ。

6 本時の活動 全=全園児 ④=年中児 ⑤=年長児

時間	主な活動内容	環境構成	予想される子どもの様子
13:20	○ 昨日までの遊びを振り返り、今日の遊びに意欲をもつ。 ○ 絵の具で段ボールや大きな紙などに描いたり、体に絵の具を塗ったりして楽しむ。		全 昨日までの遊びを振り返りながら、楽しく描こうという気持ちをもつ。 全 約束事を復唱したり、終わりの時間を確認したりする。 全 大きな紙や段ボールに絵を描く。 全 手や足などに絵の具をつけて、感触を楽しんだり、手型や足型をつけたりする。 全 描いた絵を友達とつなげたり、段ボールを立てて、家に見立てたりする。 ④ 筆やローラーで点や線など自由に描く。 ④ 思いを体や言葉で表現しながら、楽しく描く。 ⑤ 友達に思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら、イメージを共有して描く。 ⑤ 絵の具を溶く水の分量によって、色が違ってくことに気付いたり、色を混ぜると何色になるか考えたりする。
13:50			全 片付けをする。
13:55	○ 片付けをする。		全 今日遊びについて話し合う。
14:10	○ 今日遊びを振り返る。 ○ 着替える。		全 手や足を洗い、着替える。

7 評価

- <年中児> ○ 絵の具の感触を楽しみ、感じたことや思いを体や言葉で表現しながら遊ぶことができたか。
 <年長児> ○ 試行錯誤したり、自分の思いを伝えたり、友達の思いを聞いたりしながら遊ぶことができたか。

(3) 実践を通して

子どもの興味を探りながら、絵の具や紙、段ボールを用意した。そして、片付けの仕方を工夫し継続して遊べるようにすることで、まずは自分で描くことを楽しみ、その後友達とつなげて描いたり、段ボールの家づくりをしたりと遊びが発展していった。その中で「ここ持っという」「いいよ」と友達と協力したり、絵の具を段ボールにたらし、絵の具がたれていくスピードを観察し、折れ目のところが速くたれる、たれた絵の具が集まるとスピードが速くなると発見したりする子もいた。家づくりでは一人ひとりの家がつながり、アパートになって「ピンポン A ちゃん遊ぼう!」とごっこ遊びへと発展していった。

心いっぱい遊ぶ中で、友達とのかかわりが深まり、意欲や思考力、発想力も育まれてきていると感じた。

5 今日の保育について

子ども達は、園庭では砂場遊びやボール遊びなど体を動かして遊ぶことを、室内では廃材で作品を作ったり絵を描いたりして遊ぶことを好んでいる。「これは、私で。これはママ!」「あっ!私も描こう」などと言いながら絵を描くことを楽しんでいる。しかし、イメージしたことがうまく描けないとあきらめたり、自分の思いをうまく伝えることができなかつたりしてトラブルになることもある。

そこで、本時は、汚れてもいい服に着替え、汚れを気にせずに開放感を感じながら思い切り遊ぶ中で、思い思いに描いたり、友達と一緒に描いたりすることを楽しんでほしい。その中で思いを伝え合う楽しさも感じてほしいと考えた。



ここに一緒に描こうよ

子どもを生かす支援活動

- 全 汚れてもいい服に着替え、裸足になり開放的に遊べるようにする。
- 全 遮光ネットをはって日陰を作ったり、水分補給できるように水筒をテラスに置いたりして、子ども達が気持ちよく遊べるようにする。
- 全 紙がとんだり、段ボールが倒れたりしないように旗台を用意しておく。
- 全 友達や異年齢児と一緒に描いたり、絵の具の感触を楽しんだりしながら、イメージを共有して遊べるように言葉かけをする。
- 全 保育者も積極的に遊びに参加し、子ども達と楽しさを共有する。
- 全 遊びに入れていない子がいたら、保育者が遊びに誘ったり、友達の遊びに気付けるよう言葉かけをしたりする。
- 全 トラブルが起きた時は互いの思いを聞いたり、みんなに投げ掛けたりして、自分達で解決していけるようにする。
- ④ 道具がうまく使えなくて困っていたら、子ども同士で教え合えるように言葉かけをする。
- ④ 子どものつぶやきに共感し、イメージが広がるように言葉かけをする。
- ⑤ 子ども達の考えや協力している姿に共感し、周りの子ども達にも知らせ、やってみようという気持ちをもてるようにする。
- ⑤ 試行錯誤する姿に共感し、探究心が増すようにする。
- 全 次の日に遊びがつながるように、片付けの方法を子どもと共に考える。
- 全 進んで片付けをしている子がいたら褒めて、意欲的に片付けができるようにする。
- 全 楽しかったことや友達のいいところなどをみんなに知らせ、楽しさを共有し、次の日の遊びへの意欲へつなげるようにする。
- 全 思いを進んで伝える姿や上手に友達の思いを聞いている姿を褒め、話し方・聞き方に気付かせる。



裸足っていい気持ち



5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

アパートができたよ

【成果】

- 少人数園だからこそできる園内研修の方法を指導していただいた。全保育者で子どもの様子を丁寧に見とって情報交換することで、多面的な子ども理解へつながった。
- 友達同士「イメージを共有」するためにどう援助すればいいのか、また、伸び伸びと遊ぶ中で保育者が遊びの方向性を示唆するような言葉かけをすることも大切であることを学び、保育者の資質向上につながった。
- 子ども達を肯定的に受け止め、あたたかいかかわりができていると言っていた。客観的に見ていただくことで日々のかかわりの再確認ができた。

【課題】

- 園児数が少ないため、援助しすぎる面があり、子どもの探究心や試行錯誤する力を育むためには、保育者がどこまで援助すればいいのか今後の課題である。
- 2回の訪問を保育参観する形式するのは難しいと感じた。2回目の訪問は職員の研修の場としてほしい。

善通寺市立筆岡幼稚園

1 本園の教育

教育目標

いろいろな活動に自発的に取り組み
心豊かでたくましい子どもを育てる

めざす子ども像

- ◇ 自分のことは自分でできる子ども
- ◇ きまりや約束を守る子ども
- ◇ 自分の思いが表現できる子ども
- ◇ 友達と一緒に挑戦する子ども

2 園児数

平成30年1月9日現在

	年少・もも	年中・あか	年長・あお	計
男	11	21	8	40
女	9	13	12	34
計	20	34	20	74

3 特色のある教育活動

健康な心と体

- よい生活習慣・態度づくり
 - ・ あいさつ運動
 - ・ 当番活動
 - ・ 正しい姿勢で話を聞く。
 - ・ 自分でできることは自分でする。
 - ・ はっきり話す。
 - ・ 決まりや約束を守る。
- 強い体づくり
 - ・ がんばり大会
(なわとび・一輪車・竹馬など)
 - ・ 月1回のなかよしハイキング
 - ・ かけっこ・リレー・ボール遊びなど

心豊かでたくましい 筆っ子の育成



『楽しい文字遊び』参観

人のかかわり

- 友達との交流
 - ・ 園行事でのつどい
 - ・ 小学校との交流
 - ・ 『なかよしグループ』での異年齢交流
- 地域の人との触れ合い
 - ・ 公民館まつり
 - ・ 幼小合同運動会
 - ・ ボランティア公園夏まつり参加
 - ・ ひなまつりお茶会

家庭との連携

- 親子交流
 - ・ 親子読書
 - ・ 親子夕涼み会
 - ・ 親子遠足
 - ・ 授業参加・参観
- 園と家庭が手を取りあって
 - ・ 個人懇談会
 - ・ 給食参観
 - ・ 園だより
 - ・ 筆幼通信
 - ・ がんばりっこ (生活習慣・家庭での手伝い)

豊かな心

- 自然との触れ合い
 - ・ 筆岡の里めぐり
 - ・ 小動物遊び
 - ・ 草花摘み
 - ・ 野菜作り
 - ・ スイカ狩り
- 誕生会 (月1回)
- 絵本の読み聞かせ



小学生との交流

小学校との連携

- 運動会
- もちつき大会
- 1日体験入学
- 小学校との交流学习



発表会

4 実践事例

(1) 日案

年長あお組 日案

平成29年10月12日(木)

- 1 今日のねらい
- ・ 友達に自分の思いを伝えたり、友達の考えを聞いたりして一緒に相談しながら遊びを進める。
 - ・ 秋の自然物を遊びに取り入れ、友達と一緒にイメージを膨らませながら様々な物を作ったり、遊んだりすることを楽しむ。

2 内 容 (_____ : 大切にしたい関わり)

時間	幼児の活動	活動の内容及び支援	準備物
8:00	1 登園する。 ・ 荷物の片付けをする。 ・ 挨拶当番をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 笑顔で挨拶を交わし、一人一人を温かく受け入れていく。 ・ 挨拶する姿を見守り、相手の目を見て、元気に挨拶する気持ちよさを感じられるような雰囲気作りを大切にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ どんぐり ・ 葉っぱ
8:45	2 コーナー遊びをする。 ・ 砂場遊び ・ 竹とんぼ ・ 運動遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・ <u>拾ってきたどんぐりや葉っぱなどを使いやすいように準備することで、友達と一緒にイメージを出し合って遊びを進めていく姿を認め、関わっていく。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 枝 ・ 砂場セット ・ 油性ペン ・ ストロー
9:40	3 朝の会をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一日の流れを伝えることで見通しをもって活動に取り組めるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 牛乳パック ・ セロテープ
10:00	4 『おはなしひろば』の準備をする。 ・ 発表の練習をする ・ 感想を言い合う ・ グループごとに話し合いをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 友達と役割について話し合ってきたことをもう一度確認し、目的意識をもって取り組めるよう関わっていく。 ・ <u>一人一人の頑張っていることや、工夫しているところを具体的に伝えることで、自信をもち、より意欲的に取り組めるようにする。</u> ・ 思いを伝え合うことで、友達の思いに気付いたり、受けとめようとしたりしている姿を見守り、<u>必要に応じて話し合いに参加していく。</u> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 机 ・ パーパート ・ 背景 ・ 紙芝居 ・ おめん ・ かぶ
11:00	5 給食を食べる。 ・ 用意をする。 ・ 食べる。 ・ 歯磨きをする。 ・ 片付けをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 次の活動を始める時間を伝えることで、就学に向けて時間を意識しながら行動できるようにする。 ・ 旬の食べ物があることを知らせることで、食べ物に関心をもちながら食べられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふきん ・ パケツ ・ 消毒液
	6 掃除をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自分の役割を静かに取り組む姿を認めていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ほうき ・ ちりとり
13:10	7 チャレンジ遊びをする。	<p style="text-align: center;"><次ページに記載></p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうきん
14:05	8 帰りの会をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 楽しかったことを話し合い、明日の活動に期待をもてるようにする。 	

- 3 評 価
- ・ 友達と一緒に考えを出し合って協力したり、友達のよさに気付いたりしながら共通の目的をもって遊びを進めることができたか。
 - ・ 秋の自然物を使って友達とイメージを共有しながら遊びを楽しんでいたか。

(2) 保育指導案

年長あお組 保育指導案

- 1 日 時 平成29年10月12日(木) 13:10~14:00
- 2 場 所 南運動場
- 3 今日の遊び チャレンジ遊びをしよう
- 4 対 象 児 男児8名 女児12名 計20名
- 5 ね ら い
- ・ 同・異年齢の友達と一緒に体を動かす楽しさを味わう。
 - ・ グループの友達とチャレンジ遊びをする中で、小さい友達が気遣い、思いやりの気持ちをもって接するようになる。

6 内 容

時間	幼児の活動	活動の内容及び支援	準備物
13:10	1 竹馬をする。 ・ なかよしグループになる。	<ul style="list-style-type: none">・ <u>コースを描いたり、コーンを置いたりすることで「やってみよう」という気持ちを大切に、意欲的に友達と一緒に挑戦できるようにする。</u>・ 一人一人の頑張りを認めることで自信をもったり、友達の頑張りに気付いて励まし合ったりする心を育てていく。	<ul style="list-style-type: none">・ アンブ・ マイク・ CD・ 竹馬・ コーン
13:20	2 バランス体操をする。	<ul style="list-style-type: none">・ 曲に合わせてバランス体操をすることで、楽しい雰囲気づくりをし、次の遊びに期待をもてるようにする。	<ul style="list-style-type: none">・ 長縄・ 平均台
13:25	3 チャレンジ遊びをする。 ・ 長縄跳び ・ 平均台 ・ エス棒 ・ キャタピラ	<ul style="list-style-type: none">・ グループの友達と一緒に活動することや、安全に気を付けて遊ぶことなどを約束しておく。・ 友達に優しく接したり、教えたりしながら一緒に遊ぶ姿を認めることで、自己有用感を感じられるように関わっていく。・ 保育者間で事前に情報を交換し、他のクラスの子どもの様子や関わり方について話し合っておく。・ <u>遊びの中でアイデアを出し合い、工夫して遊んでいる様子を周りの友達に知らせることで、新たな発見につながったり、遊びが深まったりできるような関わりをする。</u>・ 異年齢の友達との関わりを見守りつつ、困っている時には友達の気持ちに気付かせたり、関わり方を知らせたりしていく。・ 友達を応援する姿をしっかりと認めることで、友達と一緒に体を動かす楽しさを味わえるようにしていく。	<ul style="list-style-type: none">・ エス棒・ キャタピラ・ 看板
13:55	4 今日の遊びについて話し合う。 5 片付けをする。	<ul style="list-style-type: none">・ グループの友達と遊んで楽しかったことを振り返り、次回の遊びに期待がもてるようにする。	

- 7 評 価
- ・ グループの友達と遊ぶ中で、思いやりの気持ちをもちながら、小さい友達が優しく接したり、応援したりすることができたか。
 - ・ めあてをもって粘り強く挑戦したり、友達と一緒に楽しんだりしていたか。

(3) 実践を通して

- 本時の指導案だけでなく、日案を作成することによって一日の流れはもちろんのこと、学年ごとの目標や異年齢での関わり方について発達段階に沿って話し合ってきた。その結果、全保育者で一人一人の子どもに関わるようになり、個々の育ちについて把握することができた。また、環境設定や支援の在り方について保育者間で共通理解をし、見通しをもった取組をすることができた。
- 日常生活の中に異年齢の『なかよしグループ』での活動を取り入れることにより、年少児は初めてのことに安心した気持ちで取り組むことができた。また年長児は小さい友達を気遣うことで頼られる存在となり、自己有用感の育成につながった。
- 異年齢での活動は子どもたちにとって苦手なこと、少し難しいと思えること、初めてのことに「やってみよう！」と意欲が高まることで、遊びの幅が広がるなど主体的な遊びの活動のきっかけになった。



5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 幼児教育アドバイザーの方々の訪問により、園における保育活動への客観的な評価からのご指導をいただき、日々の具体的な保育活動や指導方法等を見直し、その改善・充実を図ることができ、次時へつなげていくことができた。
- これまで行ってきた様々な取組を見直す機会となり、その取組のねらいを明確にして、保育者が共通認識をもつことで具体的な手立てを探り、連携・協働の実効性を高めることができた。
- 各保育者が課題意識をもった日々の保育活動を通して、幼児教育アドバイザーの方々のご指導により、一人一人が自己の取組について振り返り、若年保育者を中心に資質能力の向上を図ることができた。また、園の保育体制やカリキュラム等マネジメントの視点での主体的な研修意欲の向上につながった。

【課題】

- 集団生活の中で「かかわる」「つながる」「ささえる」をキーワードに主体的な遊びを創造するために、幼児理解、適切な関わり等保育者の資質・能力の向上を図ることが課題である。また、個々の保育内容を「身につけたい（期待する）力」という視点で見直し、改善を図りつつ、ねらいを明確化し、園全体としての課題共有を図ることを重視した、カリキュラム・マネジメントの推進が求められていると考える。
- 子どもたちが心の底から「楽しい」「もっと遊びたい」と思えるような遊びの広がりや深まりについて、子どもたちの遊ぶ姿から環境構成を工夫したり、支援の仕方を考えたりし、子どもたちの「試してみる」「繰り返す」活動へとつなげていきたい。

善通寺市立吉原幼稚園

1 本園の教育

目 標

豊かな心を持ち、意欲的に活動する子どもを育てる

め ざ す 幼 児 像

- 自分のことは自分でしようとする子ども
- 話をよく聞き、自分の思いが話せる子ども
- 友達と一緒に仲よく遊べる子ども
- 自分なりのめあてを持ち、がんばる子ども
- 友達と協力して、仕事や手伝いを喜んでする子ども

教 育 方 針

- 生活に必要な習慣や態度の育成を図り、自分のことは自分でしようとする子どもを育てる。
- 幼児が主体的に環境とかかわって活動する中で、豊かな心情・意欲・態度を育てる。
- 地域の自然や人々との触れ合いを通して、自然や人とかかわる力・健やかな心身を育てる。

2 園児数

年 齢	3 歳 児	4 歳 児	5 歳 児	合 計
ク ラ ス 名	も も	き	み どり	
幼 児 数	17	16	26	59

(平成30年1月9日現在)

3 特色ある教育活動

生活に必要な習慣や態度と技能の育成

- あいさつ運動
- はっきり話す
- 本を読んだり音楽を聴いたりする
- 決まりや約束を守る
- みんなのために役立つ（当番活動）
- 正しい姿勢で話を聞く
- 道具の使い方を身につける
- 自分でできることは自分でする
- 好き嫌いなく何でも食べる

強い心と体づくり

- 運動遊び
〔一輪車・フラフープ・なわとび・かけっこ・リレー・ボール遊び・固定遊具や移動遊具など〕
- ふるさと散歩
〔曼荼羅寺・出釈迦寺など 寺社・地域の史跡〕
- おにぎりハイキング
〔市民集いの丘公園・さざなみ公園・大塚池公園 など〕

自然とかかわる力

- ふるさと散歩
- 探検ごっこ
- 夏野菜・芋・米づくり
- 虫取り・草花遊び・試し遊び・観察遊び・小動物の飼育 など

人とかかわる力

- 地域の人々とのふれあい
 - ・ 絵本の読み聞かせ
 - ・ 夏祭り
 - ・ 公民館まつり
 - ・ 交通教室
 - ・ 保幼小合同運動会
 - ・ 長寿を祝う会
 - ・ 田植え～稲刈り、脱穀
 - ・ ふれあい餅つき
 - ・ 幼小地域交流会
〔案山子づくり、自然物での玩具づくり〕
- 友達とのふれあい
 - ・ グループ遊び
 - ・ 同年齢、異年齢交流
 - ・ 小学生との合同授業

4 実践事例

(1) 日 案

年長みどり組 日案

- ① 日 時 平成 29 年 11 月 20 日(月) 8:30~14:30
- ② ねらい 友達と相談したり、協力したりしながら遊びや活動を進めることを楽しむ。
- ③ 内 容

時間	幼児の活動	指導上の留意点及び支援
8:30	<ul style="list-style-type: none"> 登園する。 <ul style="list-style-type: none"> 身の回りの片付け 戸外でやりたい遊びを選んで遊ぶ。(虫探し・リレー・一輪車・鬼ごっこなど) <ul style="list-style-type: none"> めあてをもって 友達と一緒に相談して 友達とイメージをあわせて 	<ul style="list-style-type: none"> 笑顔であいさつを交わし、顔色、様子から子どもの状態を把握する。 好きな遊びの中で充実感を味わえるよう援助していく。 
9:30	<ul style="list-style-type: none"> 朝の会をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 虫や木の実を探し、観察したり遊びに使ったりしている姿を見守り、発見や感動を共有する。 鬼ごっこやリレーでは子ども達だけで遊びを進めていこうとする意欲的な姿を認めていく。
9:40	<ul style="list-style-type: none"> 絵本を読む。 <ul style="list-style-type: none"> 静かに落ち着いて 自分で絵本を選んで 	<ul style="list-style-type: none"> 生活の流れを把握して、自主的に朝の会が進められるよう援助する。 本は丁寧に扱うこと、自分で選んだ本をじっくりと落ち着いて読むことができるよう指導する。
9:50	<ul style="list-style-type: none"> おまつりごっこの出店に必要なものを作る。 <ul style="list-style-type: none"> 友達と相談しながら、教え合ったり、協力したりして作る。 	<ul style="list-style-type: none"> 各グループの話し合いに参加し、相談に乗ったり、一緒に材料を集めたりする。 子どもの話を丁寧に聞き、子どものイメージやこだわっていることを大切にしながらイメージが実現できるよう援助していく。
11:20	<ul style="list-style-type: none"> 片付けをして、給食の準備をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しい雰囲気を大切にしながらも、自らこぼさないよう姿勢を正し、時間を気にしながら時間内に食べ終えることができるよう助言する。
11:40	<ul style="list-style-type: none"> 給食を食べる。 	<ul style="list-style-type: none"> 当番の役割を認識して、主体的に取り組む姿を認めていく。
12:40	<ul style="list-style-type: none"> 片付け・清掃をする。 	
13:10	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「出店を作ろう」</p> <ul style="list-style-type: none"> できあがった品物やゲームの展示の仕方や当日の遊び方などをグループごとに話し合い、試してみる。 </div>	 <ul style="list-style-type: none"> 子ども達がめあてや見通しをもって自主的に進めていこうとする態度を大切にする。 子ども同士の会話や表情から、自分の思いを出したり、友達の思いを受け止めたりしながら協力して進められているか見守る。
14:10	<ul style="list-style-type: none"> 降園準備をし、帰りの会をする。 <ul style="list-style-type: none"> 一日の振り返り 明日の当番を知る。 絵本を聴く。 	<ul style="list-style-type: none"> 一緒に片づけをしながらつぶやきや会話に耳を傾け、思いに共感し、言葉を返していく。
14:30	<ul style="list-style-type: none"> 降園する。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しかったことを話し合う中で、活動のおもしろさを共感し合い、充実感や満足感を得て活動が終えられるよう配慮する。 明日への活動へ見通しをもち、楽しみにできるようにする。

(2) 保育指導案

年長みどり組保育指導案

- ① 対象児 男児 13名 女児 13名 計 26名
- ② 題材 出店を作ろう
- ③ ねらい イメージを実現するため、友達同士で方法を相談して考え、意欲的に活動する。
- ④ 内容

幼児の活動と予想される思考	保育者の具体的な支援と手立て	準備物
<p>○ グループに分かれて作った品物やゲームを並べる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ どこに何を並べようか。 ○ どうしたら、お客さんがスムーズにゲームができるようになるのかな。</p> </div> <p>○ グループ内で意見を出し合って、試行錯誤しながら店を作っていく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ こうしたほうがいいよ。 ○ 勝手に変えないで！ ○ こうすれば、うまくいくよ。 ○ なるほど、いい考えだね。</p> </div> <p>○ 各グループで店を見せ合い、他グループの友達にお客さんになってもらって、売り買いをしたり、ゲームをしたりして試してみる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>○ うまくいったぞ。 ○ ○○が足りないな。 ○ 何をしたらいいかわからないよ。 ○ どうしたら、もっとお客さんに喜んでもらえるかな。</p> </div>	<p>保育者の具体的な支援と手立て</p> <p>○ 一人一人が意識して活動に取り組めるように保育者が仲立ちとなつて、これから何をするのか話をして働きかけていく。</p> <p>○ それぞれのグループがイメージどおりに店を設定できるよう、空間の確保をする。</p> <p>○ 話し合いが進まないグループにはヒントを与えたり、一緒に活動に加わったりして支援する。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div> <p>○ イメージがつかめていない友達に気付かせ、友達同士で教え合えるよう声を掛けたり、教え方を知らせたりしていく。</p> <p>○ 意見が食い違うときはどうしたらよいか問いかけ、受け入れたり譲ったりする必要性にも気付かせていく。</p> <p>○ 各出店の作ったものを見たり、触れたりする機会をつくり、友達の活動を知って、興味をもったり認めたりする気持ちをもてるよう配慮する。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;">  </div>	<p>準備物</p> <p>作った物 机 テープ など</p>

<ul style="list-style-type: none"> ○ 良いところや気付いたことについて、みんなで話し合う。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ○ なるほど、〇〇を作ればいいんだ。 ○ あのグループのいいところをまねしよう。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 他のグループの友達に楽しんでもらったり、認めてもらったりすることで、自信を得られるようにする。 ○ 工夫したこと、頑張ったことを発表する中で活動の楽しさを共有し、また互いに認めていく場にする。 ○ 他のグループの意見を聞くことで、うまくいったこと、改善すべきことを確認し、明日への活動のめあてを明確にしていく ○ 協力して片付けをしながら、お祭りごっこへの期待を高めていく。 	
--	--	--

⑤ 評価 友達とイメージを共有し意見を出し合いながら、活動を進めることができたか。

(3) 実践を通して

- 異年齢でそれぞれがねらいをもって計画的に遊びを進めてきたことで、おまつりごっこ当日は保育者も楽しみながら遊びに参加することができた。子どもたちも他のグループの活動に興味をもったり、一緒に遊びに加わったりすることで、遊びに深まりが見られた。おまつりごっこ後は以前よりも異年齢のかかわりが多く見られるようになった。
- 年長児は、年少児や年中児が出店で半日近く楽しく遊んでくれた体験から、12月のお楽しみ会ではケーキ屋さんや福引き屋さんを計画し、遊びを進めていった。達成感や満足感がエネルギーとなり、ますます主体的に活動することを楽しむ姿が見られている。

5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 保育内容について何度も検討する中で、様々な資料に目を通し自主研修を重ねたり、そこで得た知識を伝えたり、共有したりする機会を多く得た。他のクラスの実態やねらいを具体的に知ることによって、全保育者が全園児の姿を気に掛け、情報を交換しながら見守り支援していくようになった。
- 幼児教育アドバイザーの方々から、多面的な視点からの保育の進め方や支援の仕方などについて指導していただいたり、具体的なアドバイスをいただいたりしてとても勉強になった。
- 例えばスタンプ遊びでは、スタンプ台を使うのか、絵の具を使うのか、この遊びに適切な素材はどれかなどいくつもの案をだし、保育者が事前に綿密な教材研究を行うことで、遊びの深まりが大きく変わることを知った。

【課題】

- 訪問時のみ指導案や保育内容について園内研修を行うのではなく、日常の保育の中でこそ保育者間で話し合ったり、教材研究を重ねたりして、質の高い保育を行うよう努めたい。
- 全保育者がめざす子ども像の具体的なイメージを共有し、常に情報交換しながら、アイデアを出し合い計画的に保育を行うべきだと感じた。
- 他園の保育を見たり、自園の保育について意見をいただいたりする機会が増えれば、自身の保育を見直す機会が増え、専門的な知識も得ることができ、即実践につながるのではないかと思う。

学校法人聖母学園 善通寺聖母幼稚園

1. 本園の教育

【教育目標】 『よいこ・つよいこ・あかるいこ』

- なかよく元気に遊ぶ子ども
- つよい心でがんばる子ども
 - 神さまを知り、両親に感謝する子ども
 - 明るく素直な優しい心を大切にする子ども

【めざす子ども像】

- 感謝できる子ども
- 豊かな心を持つ子ども
- 自分の意志と判断をもって行動できる子ども
- よく聞き、よく見、よく考えてやり抜く子ども
- 友だちと心を通わせ、なかよくできる子ども
- 明るく生き生きとした子ども

【教育方針】

- カトリック幼稚園としてキリスト教の愛の精神を基盤に、一人ひとりを大切にし、思いやりの心を育てる。
- 子どもの心身の成長に寄与し、縦割りクラスを基礎とした保育の中で、協調性・社会性を育てる。
- モンテッソーリ教育を基に豊かな人格形成を支援する。

2. 園児数

平成30年1月9日現在

年齢(縦割り)	満3歳・3・4・5	満3歳・3・4・5	合計
クラス名	つき	てんし	
幼児数	21	22	43

3. 特色ある教育活動

• 縦割りクラス編成を通して、年少児は年長児・年中児を見習って学び、年長児・年中児は年少児をいたわる心が育っていき、豊かな人間性・社会性を育てていく。

• 子ども一人ひとりの発達にふさわしい遊び（モンテッソーリ教具などを使い）を
発展し、細やかな援助を行う。

• モンテッソーリ教育に基づき、自分で自分の活動
を選び、納得するまでくり返し取り組める時間を保障する。

• 小規模園の良さを活かし、季節の行事（マリアさまへの行列・献花・
運動会・おゆうぎ会・クリスマス礼拝など）、親子のふれあい活
動（春の遠足・ふれあい参観日・体育参観日など）の充実をはか
る。

モンテッソーリ教具
着衣枠



秋の遠足



クリスマス礼拝





4. 実践事例 【お誕生会】 平成29年12月19日

ねらい：誕生日当日に行う事で、一人ひとりが神さまからいただいた大切な命だということを子どもたちが知り、誕生日は命が生まれた大切な日だという事を理解する。

(1) 日案

(2) 保育指導案

時間	生活の流れ	配慮事項	時間	子どもの活動内容	支援活動・配慮
8:15 ~9:00	○登園（徒歩通園児） ・朝のお祈り ・活動服に着替	・笑顔であいさつをし、一人ひとり温かく迎え入れる。	13:00	【お誕生会】 椅子に座る お誕生日の子どもは前の椅子に座り、ケープをつける	<ul style="list-style-type: none"> ・静寂な雰囲気を作るため、カーテンを閉め、電気を消す。 
8:30 ~9:30	○登園（バス通園児） 【徒歩通園児と同様】 ○自由選択活動 （室内・園庭） モンテッソーリ教具等を使って	・保育室の教具を充実させ、子どもがやってみたいと思えるよう環境を整える。			
11:15	○年齢別活動（年長・年中・年少・満3歳） ・教会でクリスマス礼拝の話聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・座る席などで、トラブルが起きた時は、必要に応じて声をかける。 	ロウソクに火を灯し、お誕生日の子ども紹介の話を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・ロウソクに火を灯し、この世に命が産まれたことを表す。 	
11:40 12:00	○お当番活動 ○昼食 ・自分で座る席を決める ・食前のお祈り ・食後のお祈り ・片付け ・歯磨き		命の芽生えを表現しています。	お家の人からのお祝いの手紙を聞く	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に手紙を書いてもらい、お家の人の思いを知る。
13:00 14:45	○自由選択活動（室内・園庭） ○帰りの仕度 ○降園（徒歩・バス通園児 順次降園） ・預かり保育	お誕生日ボックスを1週間前から出しておき、思い思いのプレゼントを子どもたちが用意しています。	13:20	プレゼントをもらう ・友だちから ・園長先生から 「誕生日おめでとう」の歌を歌う	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちからの手作りのプレゼントを受け取り、子どもたちからの思いを知る。 

(3) 実践を通して

今回、本園で大切にしている誕生会を実際に見てもらい、知っていただくことができてよかった。お誕生会をする中で、誕生日の子ども自身が、神様や周りのひとたちにどれだけ愛されているのかということを感じ、また一緒にお祝いする子どもたちも同じ思いを感じていけるよう、これからも取り組んでいきたい。また静寂な雰囲気の中、心穏やかに参加し、お祝いする子どもたちが誕生日の子どものことを考える時間を大切にするとともに、ご指導いただいた子どもたちが自ら動く機会を増やすよう、子どもたちと話し合いながら進めていきたいと思う。

5. 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- ・2回目の訪問で日々行っている保育の指導案を書くことで、保育者全体で見つめ直すきっかけとなった。
- ・具体的な指導や助言をいただき、自分の保育に新しい視点を持つことができた。

【課題】

- ・特別な支援を必要とする子どもについての助言もいただき、「一緒に走る伴走者」として関わり、幸せだと感じられる園生活を送れるよう、園内研修を充実させたい。
- ・アドバイザーの方からご指導いただいた場に、参加できない保育者（バス乗車、預かり保育）がいたので、園全体で研修を進める体制を整えていきたい。

善通寺市立善通寺保育所

1 本所の教育 【保育理念・保育方針・保育目標】

- 保育理念 ・保育を必要とする子どもの養護・教育を行い、社会生活を営むための人格形成を図る。
・子どもの最善の利益を守り、心身共に健やかに育てる。
- 保育方針 ・違いを認め合い、生命の尊さと一人ひとりの人権を尊重し、共に生きる喜びを育む。
・子どもが人や自然と出会い、かかわり、心を通わせながら成長していく生活の場を確かなものにする。

- 保育目標 ・一人ひとりが認められ、人とのかかわりを喜び 自分や人を大切に思う仲間づくりを

【めざす子ども像】



- ☆ 心身ともに健康な子ども
- ☆ 自分のことは自分でしようとする子ども
- ☆ 自分の思いを表現したり、人の話が聴けたりできる子ども
- ☆ 遊びを工夫し仲間と共に楽しむ子ども
- ☆ 友だちといることを喜び、小さな喜びも分かち合える子ども

2 幼児数

平成 30 年 1 月 9 日現在

年 齢	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
ちゅうりっぷ組	10	2					12
もも組		16	1				17
きく組			21				21
さくら組				9			9
うめ組					3	6	9
幼児数	10	18	22	9	3	6	68

3 特色ある保育活動

- 家庭的な雰囲気の中で情緒の安定を図り、自分や人を大切に思う仲間づくりをする。（保育所は大きな家庭）
 - 地域の方や自然とかかわりながらいろいろな実体験をし、感じる心を育む。
- <ふれあい広場> 毎月第1・3木曜日、地域の子育て親子と交流し、わらべうたあそびや季節のあそびをとおしてふれあったり親しんだりし、心豊かに育ち合う生活づくりをする。
- <元気な土作り> 野菜くすとぼかし菌・米糠などを混ぜ合わせて土作りをし、元気野菜を育てて味わう。
- <味噌造り> 栄養士さんと一緒に麹菌と大豆・塩で味噌作りをし、給食やおやつで味わう。
- <菊作り> 菊名人の指導を受けながら菊を育て、咲いた菊を見ながら菊見茶会をする。



4 実践事例

(1) 日 案

①日 時 平成 29 年 7 月 28 日(金)

②対象児 3 歳児 10 名 (男児 3 名 女児 7 名)

③子どもの姿 ・水や砂に触れて遊ぶことを楽しんだり、野菜の水やりや収穫をしたりして喜んでいる。
・友だちや保育者に自分が見つけたことやおもしろかったことを伝え合い、楽しんで遊んでいる。

④生活の流れ (デイリープログラム)

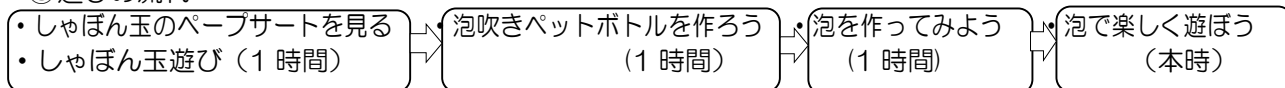
時間	予想される活動及び内容	保育者の援助と配慮・環境構成
7:00~	○登所 ・順次登所する。 ・早朝保育室で遊ぶ。	・保育室や園庭の環境を整えておく。 ・笑顔で挨拶をし、健康観察をする。また、早出保育者や保護者から連絡事項や家庭での様子を聞き、一人ひとりの健康状態を把握する。
8:30	・持ち物の片づけをする。 ○好きな遊びを楽しむ。 ・ブロック・ラQ・粘土など好きな遊びを選んで遊ぶ。	・自分の持ち物を自分で片付けている姿を認め、自信につなげる。 ・一人ひとりが自分の好きな遊びを選んで友だちといっしょに楽しんで遊べるようにコーナーを準備する。
9:30	○お話タイム ・友だちいるかな? ・季節の歌やわらべ歌を歌う。 「うみ」「そうめんにゅーめん」など ・絵本を読んでもらう。 「ぐりとぐらのかいすいよく」「せみ」 ・今日の活動の話进行聞く。	・お話タイムが始まることを伝える。 ・友だちに関心が持てるようにする。 ・季節の歌を歌ったり、わらべうたあそびをしたりしてふれあって遊べるようにする。 ・絵本を見たり、つぶやきや反応を受けとめたりしながら友だちといっしょに楽しめるようにする。 ・今日の活動について話し、期待が持てるようにする。
9:45~	「泡で楽しく遊ぼう」	次ページに記載
11:00	○給食準備・給食 ・手洗い、エプロンなど準備をする ・ランチルーム(ホール)に行く。 ・給食の配膳を手伝う。 ・挨拶し、給食を食べる。 ・食器を片づける。 ・歯磨きをする。 ・静かに部屋に戻る。	・排泄や手洗いなど、一人ひとりの様子を見て必要な子には援助したり、声をかけたりする。 ・みんなで協力して給食の準備をする。 ・自分で食べられそうな量かどうか確かめながら、量を調節する。 ・当番から今日のメニューや食材の話进行聞き、挨拶をし、よくかんで楽しく食べられるようにする。 ・いろいろな食材が食べられるように励ます。
12:30	○午睡準備・午睡 ・排泄、着替えなど準備をする。 ・午睡をする。	・食器に手を添えて食べているか見守る。 ・午睡の準備や片付けなど自分でできるところは自分でするように促す。 ・寝つけない子には寄り添い、安心して眠れるようにする。
15:00	○午後のおやつ ・手洗い、おやつ準備をする。 ・挨拶をし、おやつを食べる。	・目覚めの様子を観察する。 ・なごやかな雰囲気の中で、楽しくおいしくおやつが食べられるようにする。
15:50	○降所準備 ・帰りの持ち物の準備をする ・明日の活動の話进行聞く ・好きな遊びをする。	・忘れ物はないか確認の声をかける。 ・明日の活動について話し合い、期待を持たせる。
16:00 ~ 19:00	○順次降所	・迎えが来たら、保護者に1日の様子を伝え、連携をとる。

(2) 保育指導案

『泡で楽しく遊ぼう』

- ①ねらい 泡を作ったり、泡を使ってままごとをしたりして、泡の感触を味わいながら友だちと楽しんで遊ぶ。
- ②今日の保育で大切にしたいこと
 - ・泡の気持ちよさを感じながら好きな遊びを選んで楽しめるように環境を工夫する。
 - ・子どもたちの発見や驚きに耳を傾け、共感していく。

③遊びの流れ



④活動内容

時間	予想される活動及び環境	保育者の援助と配慮	準備物
9:45	○戸外に出る準備をする。 ・保育者の話を聞く ・水分補給・排泄・着替準備をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・今まで泡を使っているいろいろな遊びをしたことを思い出しながら、泡でクリームやケーキなどもっといろいろ作れることに興味を持てるようにする。 ・水分補給や着替準備などできたか確認する。 ・自分の好きな泡遊びを選んで楽しめるように玩具や石鹸を準備する。 ・暑いので、日陰で遊ぶことや、水分補給を促すようにする。 ・泡吹きペットボトルは吸うと泡が口に入ってしまうので気をつけて遊ぶようにする。 ・次々出てくる泡のおもしろさや発見、感触など子どものつぶやきに耳を傾け、共感したい。 ・うまく泡ができない子には、保育者がコツに気づくように声をかけたり、やって見せたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・粉状にした固形石鹸 ・水（バケツ） ・テント ・テーブル ・泡吹きペットボトル ・シャボン液 ・容器
9:55	○友だちや保育者と一緒にコーナーに分かれて泡遊びをする。 ○泡吹きボトルで遊ぶ。 ・自分が作った泡吹きボトルから泡をだして楽しむ。		
		<ul style="list-style-type: none"> ・泡だて器 ・ボウル ・スポンジ ・カップ ・スコップ ・ペットボトルのカップ ・皿 ・スプーン ・木片 	
10:50	○泡でままごと遊びをする。 ・泡だて器でいろんな泡を作り、友だちと会話しながら、ままごと遊びを楽しむ。 (ケーキ作り・ソフトクリーム作りなど) ○片付けをする。 ○手洗い・足洗いをし、着替えをする。	<ul style="list-style-type: none"> ・子どものイメージや発想を大切にしながら、泡を使ったままごと遊びが楽しめるようにしていく。 ・子どもが考えて作ったり名前をつけたりしたごちそうを見せてもらいながら、遊びに参加し保育者も一緒に楽しむ。 ・友だちと言葉や品物のやりとりを楽しみながら遊べるように援助する。 ・楽しかった気持ちを共感し、次回も遊べるように作ったものを片づける。 ・手足を洗ったり、着替えをしたりして清潔にする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・足洗い用の水 ・足ふきタオル

⑤ 評価

- ・一人ひとりが泡を使って、友だちや保育者と一緒に遊びを楽しむことができたか。
- ・子どもの発見や気づきに耳を傾け、共感したり遊びを広げたりすることができたか。

(3) 実践をとおして

- ・泡吹きペットボトルのおもしろさや泡立て器で泡を作ることなど繰り返し楽しんでた。たくさん泡ができると、ソフトクリームやケーキなどを作って友だちと「おいしそうでしょ」「たべてみる?」「ケーキもたべよう」などとやりとりも楽しんでた。
- ・石けんを粉にして遊んだが、遊んだ後の石けん水の処理など環境にも配慮が必要なことを学んだ。



5 幼児教育の推進体制構築事業に係る成果と課題

【成果】

- 昨年度に続き、保育者が自らの保育を見直し、日々の保育や行事への取り組み方・保育教材や環境構成についてなど考え直す機会となった。また、何度か市内の幼稚園や小学校との交流に参加し、各園の特色や保育の違い等に気付くことができた。子どもたちが主体的・意欲的に遊んだり、かかわったりできる環境を整えていくことの大切さなどを改めて感じた。
- アドバイザーの先生方より多方面からのご指導やご助言をいただき話し合う時間をもてたことは、保育者の自信や意欲につながっていったように思う。子どもを中心にすえ、保育の質の向上につながる研修を重ねていきたいと思う。

【課題】

- 訪問時間が10時半から12時、協議時間等が13時から14時半となっていたが、保育所のデイリープログラムでは、給食の時間になるため、9時から9時半から参観していただくのが望ましいと思う。また、保育が進行しているため、協議に全保育者が参加することは難しく、主に保育した保育者2名に限られてしまった。今後はより多くの保育者が協議に参加できるように工夫したいと思う。
- 同じ小学校に入学する子どもたちが交流できる場が増えたことはよかったと思う。次年度も、幼稚園に通う同年齢の子どもともっと交流できる機会が増えるよう希望したい。